

令和4年度

北  
広  
島

# ふるさと夢プロジェクト

## 事業報告書



令和5年3月

北広島ふるさと夢プロジェクト応援隊

## 目 次

1.	はじめに	1
2.	令和4年度「北広島ふるさと夢プロジェクト」事業 全体計画	2
3.	4年生「お宝発見ツアー」	4
4.	5年生「民泊体験～北広島のよさを満喫しよう～」	13
5.	6年生「夢と希望を乗せて、ロケットを飛ばそう」	32
6.	「北広島ふるさと夢プロジェクト」小学校事業を振り返って	45
7.	「北広島ふるさと夢プロジェクト」中学校事業について	51
8.	おわりに	54

## はじめに

わが国では、急速に少子高齢化が進み、本格的な人口減少社会を迎えるなか、地方の若い世代が大都市部に流出することにより、さらに予想を超えるスピードで少子化が進み、人口減少も加速しています。

北広島町では平成29年に「第2次北広島町長期総合計画」を策定しました。教育部門で「夢と希望、豊かな学び合いにあふれたまちづくり」を掲げ、「ふるさとに誇りをもち、たくましく生きる子供・若者・大人の育成」に取り組んでいます。

「北広島ふるさと夢プロジェクト」事業は、小学校事業で、地域の皆様のご協力をいただきながら、学校間の垣根を越えた同学年が同じ活動や体験をする取組、中学校事業では、各学校で地域資源を生かした取組を行っています。新型コロナウイルス感染拡大により、ここ数年オンラインで行っていた活動もありますが、今年度は対面の形で各活動を行うことが出来ました。こうした取組を通して、町内には多くの魅力や素敵な大人がたくさんいることを子供たちは感じています。この事業を将来の定住や北広島町を応援する気持ちを持った子供が育つことに繋がりたいと思っています。こういった事業はすぐに結果が表れるものではなく、地道な活動の積み重ねになりますが、子供たちの北広島町での様々な体験がこの町への愛着へと繋がると信じています。

今、世界は持続可能な社会の実現にむけて大きく動きだしています。特に、地球温暖化は、私たちの子どもや孫の生存基盤を脅かす重大な問題であり、日本を含む各国が協調して取組が進められています。本町でも、将来世代に住みよい町を受け継ぐために、2050年に温室効果ガスの排出実質ゼロを目指す「ゼロカーボンタウン宣言」を行いました。

このような時代には、従来の価値観や技術にとらわれず、新たな発想と試行錯誤を繰り返し、未来を切り開く力が求められます。私たちには、ときに厳しい表情をみせる自然とともに暮らしてきた知恵と技術があり、先人から受け継いだ文化があります。未来を生きる子どもたちには、本事業を通して、これら地域の誇りを学び、それを礎にして激動する時代の中でたくましく生きていく人間に育っていくことを願ってやみません。

町民の皆さま、地域の皆さまの益々のご協力やご支援をよろしくお願いいたします。

北広島ふるさと夢プロジェクト応援隊  
隊長 箕野 博 司  
( 北 広 島 町 長 )



# 令和4年度 「北広島ふるさと夢プロジェクト」実施計画

## 1 「北広島ふるさと夢プロジェクト」事業の実施及び応援隊について

**事業目的:**「夢を持ち、ふるさとを知り、ふるさとを愛し、将来ふるさとに住みたい、ふるさとに貢献したい、子どもの育成」

北広島町では少子高齢化が進み、将来の人口減に起因する町の活力低下が懸念されている。町の定住対策として、教育委員会では、「ふるさとを知り、ふるさとを愛し、将来ふるさとに住みたい、ふるさとに貢献したい子どもの育成」を目的とし、「北広島ふるさと夢プロジェクト」事業を実施する。

この事業は、北広島町の「こんなことができる、こんなものもできる」と思える魅力を子供たちに再認識させ、将来「北広島町に住みたい、北広島町のために貢献したい」と思える子供の育成を図る。

全町で同じ学年が同一体験をすることで、町内には多くの友達がいることを認識させ、仲間意識の醸成や閉塞感の払拭につなげる。

**事業主体** 北広島町

**主 管** 北広島町教育委員会

**組 織**

町長を応援隊長とする。

副町長・教育長を副隊長とする。

隊員として、町長部局の総務課・まちづくり推進課・商工観光課の職員、教育委員会の職員。

(事業実施については、教育委員会事務局及び校長会が主体となって行う。)

教育委員会事務局を事業事務局とする。また、学校現場から数名の校長及び教諭を隊員とする。

将来的には、地域が主体となる組織とする。

### 【応援隊】

役 職	氏 名	
隊長	箕野 博司 (町長)	
副隊長	畑田 正法 (副町長)	池田 庄策 (教育長)
隊員	川手 秀則 (総務課長)	矢部 芳彦 (まちづくり推進課長)
	中川 克也 (商工観光課長)	教育委員会職員
	大丸 哲男 (小学校代表)	森近 泰典 (中学校代表)
	二井岡 直文 (小学校代表)	
事務局	植田 伸二 (事務局長)	小椿 治之 (事務局次長)
	真倉 仁司 (事務局員)	松長 二三枝 (事務局員)

## 2 具体的な事業の目的と本年度の取組について

小学校事業については、年度当初に、教育委員会と代表校長で協議を行い、諸計画を作成する。

新型コロナウイルス感染症の対策を万全にとることを前提とし、6年生の「夢と希望を乗せて、ロケットを飛ばそう」講演会を現地にて実施、ロケット製作を行う。(今年度、天候の都合でロケット発射は各学校で後日実施とした。)5年生の「民泊体験～北広島のよさを満喫しよう～」は3年ぶりに実施した。4年生については、昨年度同様、町内の魅力を体験する「町内お宝発見ツアー」を学校毎に実施する。

### ■ 6年「夢と希望を乗せて、ロケットを飛ばそう」

○植松電機 植松社長の講演を通して、夢を持ち実現することのすばらしさを学ばせる。

○ロケットを製作し発射させるという感動体験を通して、科学への興味関心を高めさせる。

○ロケット製作・発射の共同体験を通して、町内の児童間の親睦を図る。

■ 5年「民泊体験～北広島のよさを満喫しよう～」

○民泊の1つのプログラムとして、自然の豊かさ、地域の方々との触れ合いの楽しさを学ばせ、ふるさとの良さを実感させる。

○児童同士が協働して体験をすることで、お互いの親睦を図り、課題解決能力や協働する力を養う。

■ 4年「町内お宝発見ツアー」

○町内の自然を生かした体験活動や施設・企業の見学を通して、ふるさとのよさを実感させる。

# 4年生 町内お宝発見ツアー



# 令和4年度北広島ふるさと夢プロジェクト4年生 活動報告

本地小学校

## 1 実施した活動について

【期日】 令和4年9月30日（金）

【場所】 「芸北民俗芸能保存伝承館」「まちづくりセンター」  
「戦国の庭歴史館」「大朝のテングシデ群落」「北広島町図書館・大朝郷土資料室」

【人数】 児童10名 引率2名

【ねらい】

北広島町の各施設で職員の方の話を聞いたり、自然を観察したりすることを通して、北広島町の歴史や文化、自然を学習し、自分たちの住む町の魅力について課題意識をもつ。



【芸北民俗芸能保存伝承館で職員の話をしている様子】

## 2 活動の様子

「芸北民俗芸能保存伝承館」では、北広島町の伝統芸能や伝統工芸品について職員の方の話を聞いたり、直接触れたりして、自分たちの住む町の魅力について考えた。「北広島町まちづくりセンター」では、施設を見学し、実際に会議をされている部屋に入室させていただき、会議の雰囲気を知ることができた。「大朝のテングシデ群落」では、テングシデの名前の由来や歴史、地域の方の思いを学んだ。「戦国の庭歴史館」「北広島町図書館・大朝郷土資料室」では、本地花笠踊りに通ずる歴史について学ぶこともできた。



【北広島町まちづくりセンターの館内を見学】

## 3 児童の感想

- 運動会で踊った本地花笠おどりの歴史を知ることができました。また、大人の衣装や花笠を目の前で見ることができて、とても迫力があり、感動しました。
- テングシデという名前の由来の話を聞いて、なるほどと思いました。こんな不思議な枝をした木を見たのは初めてだったから、感動しました。
- まちづくりセンターには、茶室や鏡張りの部屋等、様々な用途で使用する部屋がたくさんあることに驚きました。いつか、自分も使用してみたいと思いました。
- 北広島町図書館・大朝郷土資料室では、たくさんの本があることに驚きました。また、本地花笠おどりと関係があるものが、大朝地域にもあり、びっくりしました。



【テングシデの名前の由来を聞いている様子】

## 4 活動を終えて

社会科や総合的な学習で地域の事について調べていたが、実際に地域の事に詳しい方に話を聞いたり、本物の資料に触れたりする体験は児童にとってとても貴重な時間になった。北広島町のお宝を実感し、児童が「北広島町のよさを伝えていきたい」と思えるような取組であった。



【北広島町図書館・大朝郷土資料室の様子】



# 令和4年度北広島ふるさと夢プロジェクト 4年生 活動報告

壬生小学校

## 1. 実施した活動について

【期日】 令和4年10月3日（月）

【場所】 ユートピアサイオト  
雲月山

【人数】 児童23名 引率3名

【ねらい】

町内の自然を生かした体験活動や施設・企業の見学を通して、ふるさとの良さを実感させる。



【まずは低い所で練習して】

## 2 活動の様子

ジップライン体験は、初体験という児童が多い中、安全に気を付けて行いました。大自然の中で100m以上もの長さを滑走するジップラインはスリル満点で、勇気を振り絞ってチャレンジした児童や、楽しみながら取り組むことができた児童など、様々でした。自然の景色の美しさと、心地よい風を感じながら無事に体験を終えることができました。

雲月山では、白川勝信学芸員をゲストティーチャーとして、「雲月山で山焼きをする意味」や「雲月山の生き物」について教えていただきました。山焼きは、雲月山に生息する希少な生き物や植物を守るためだという事を知り、とても驚いていました。また、雲月山にしか生息しない生き物や植物が多いことを知ることで、雲月山は故郷の大切な山だという事を実感できたのではないかと思います。



【大空へ飛び出しました！】

## 3. 児童の感想

私は夢プロジェクトでユートピアサイオトのジップラインと雲月山に行きました。ジップラインはとてもこわかったけれど、風がとても気持ちよかったです。最後のジップラインでは、2人で手をつないで行ったのがとても楽しかったです。

雲月山では、白川さんが雲月山についていろいろと教えてくださいました。木を生やさないために山を焼いているという事を初めて知りました。急な下り坂では、すべらないように気を付けて歩きました。

夢プロジェクトはドキドキしたし楽しかったです。今回の活動で「安全・安心をつくる力」を高めることができました。



【秋の七草も教えてもらいました！】



【みんなでバンザイ！】

## 4. 活動を終えて

大自然をフィールドにして展開されているジップラインは壮大なスケールで、本町に住んでいるからこそ体験ができたものだと思います。雲月山についても、山焼きをしている山は県内で2か所というお話も聞かせてもらいました。雲月山が本町の誇りであり、貴重な山であることを児童が実感できたと思います。ありがとうございました。

### 1. 実施した活動について

- 【期日】 令和4年10月14日（金）
- 【場所】 豊平総合運動公園  
万徳院跡歴史公園・戦国の庭歴史館
- 【人数】 児童17名 引率3名
- 【ねらい】

- 北広島町の自然・文化財・文化等のすばらしさを学ばせることで、ふるさとへの愛着と誇りを持たせる。
- 町内で活動されているアンプティサッカーチームの方と交流・体験をして生き方を深める。



【杖を使って走る・シュート】



【アンプティサッカー体験】

### 2. 活動の様子

「アンプティサッカー体験」では、町内を拠点に練習をされている障がい者サッカーチーム「アフィーレ広島」の皆さんの指導を受けて、アンプティサッカーを体験した。選手の多彩な技も見れ、実際にクラッチ（杖）を使った片足での走り・ボールの扱い方等について指導を受けた後、一緒に楽しく試合をして交流をすることができた。

万徳院跡では、中世の蒸し風呂体験を行い、当時の生活の様子を体験し、地域の歴史に関心を深めることができた。児童は昔の生活と現在の生活を比べ、昔の人の生活について興味を持つことができた。

また、戦国の庭歴史館では、戦国時代に北広島町で活躍した吉川氏についての関心と理解を深めることができた。



【中世のお風呂体験】

### 3. 児童の感想

- ・アンプティサッカーは、つえを使って走るのので足が不自由な方でもできると思いました。実さいにやっていると楽しかったです。これからも北広島町の歴史やスポーツを調べてみたいです。
- ・アンプティサッカーはみんなで楽しめるスポーツだと分かりました。つえを使って走るのので手が痛くなりました。でも楽しかったです。他にもアンプティサッカーのようなスポーツがないか調べてみたいです。
- ・昔の人はお湯を使ったお風呂でなく、むし風呂だったということにおどろきました。むし風呂は湯気がすごかったです。また入ってみたいです。



【戦国の庭歴史館にて】

### 4. 活動を終えて

天候にも恵まれ、北広島町ならではの活動をする事ができた。特に、アンプティサッカーや蒸し風呂は、日頃できない交流・体験であり、生き方を深めたりふるさとのすばらしさを実感したりすることができた。北広島町の「ひと・もの・こと」に対する学習意欲が高まり、北広島町についての理解を深めることができた。スポーツや文化財など、これからもふるさとのことを学んだり、多様な体験をしたりする学習を深めていきたい。

## 1. 実施した活動について

- 【期日】 令和4年10月19日（水）  
 【場所】 戦国の庭歴史館  
 豊平どんぐり村 そば道場  
 芸北民俗芸能保存伝承館  
 【人数】 児童 3年3名 4年6名 引率3名  
 【ねらい】

社会科の学習とのつながりから、施設見学を通して学習の効果を高めるものとすると共に、町内の歴史や文化に触れ、地域の魅力を感じることができるようにする。

## 2. 活動の様子

さわやかな秋空の下、新庄小学校3・4年生の「お宝発見ツアー」がスタートしました。

最初に訪れたのは、戦国の庭歴史館。児童達は復元された館の様子や、驚くべき出土品などに心を奪われていました。また、吉川元春館跡も見学させていただき、正確に真っ直ぐ並べられた当時の石垣の様子に感心しないではいられない様子でした。

続いて訪れたのは、豊平どんぐり村のそば道場。児童達は手打ちそば作りに挑戦しました。そばをこねるには、かなりの力があるようで仲間と協力しながら必死にがんばっていました。のばす時には、のし棒の使い方に苦戦しながらも、そば打ちの先生のお手本をよく見ながら取り組みました。完成したそばをみんなで試食。一生懸命に切った様々な太さの麺を一本一本味わいながらいただきました。

最後に訪れたのは、芸北民俗芸能保存伝承館。北広島町に伝わる伝統芸能や昔から使われている道具など、児童達のまだまだ知らない北広島町の歴史や文化を学ぶことができました。また、雪上を歩く際に用いる「かんじき」を履く体験もさせていただき、昔の人の知恵に驚かされている児童もいました。

今回のツアーで、児童達は北広島町の魅力を再発見したと共に、また行ってみたいと思った人も多かったようです。児童達の好奇心が高まる一日となりました。

## 3. 児童の感想

- ◎戦国の庭歴史館で、吉川元春のことも分かったし、石垣が大きい石と小さい石で積み上げられていて、横から見ても石が飛び出ていなかったの、すごいと思いました。  
 ◎私は、そば打ち名人の3か条をまとめました。1つ目はそばの生地を切る時、細く切ること、2つ目はめん棒の使い方、3つ目は手の甲に力を入れながら生地をこねることです。  
 ◎芸北民俗芸能保存伝承館を見学して、昔はかんじきをはいていたことにびっくりしました。

## 4. 活動を終えて

北広島町の施設を訪れ、児童達は町内の魅力に気付き、改めて家族と来てみたいと考えている人もいました。また、そば打ち体験や昔の道具体験など、児童達が実際にやってみる機会も多くいただき、どの子も満足していたと感じます。ありがとうございました。



【吉川元春館の在りし日に思いを馳せる児童達】



【手に力を入れながら塊のそばをこねる児童達】



【厚さが均等になるよう慎重にそばを切る児童達】



【どう使うのかを考えながら昔の道具を見る児童達】

### 1. 実施した活動について

【期日】 令和4年10月21日（金）

【場所】 ユートピアサイオト

八幡高原（おーいの丘）

芸北 高原の自然館

【人数】 児童31名 引率3名

【ねらい】

北広島町内の特色について知り、ふるさとについての理解を深めるとともに、ふるさとへの愛着を高め大切にしようとする気持ちをもたせる。

### 2 活動の様子

「ユートピアサイオト」では、3つの班に分かれ、職員の方に教えていただきながらジップラインの体験を行った。自然の中で活動する楽しさや気持ちよさを存分に感じることができた。

「芸北 高原の自然館」と「八幡高原（おーいの丘）」では、トレッキングガイドの方に解説していただきながら展示の見学や散策を行った。見晴らしの良い丘の上でやまびこを楽しんだり、初めて見る植物や動物の足跡を熱心に観察したりと、実際に体験することで自然への興味が高まった。

### 3. 児童の感想

○ユートピアサイオト

・ジップラインが心に残りました。理由は、高いところをとんでいるようだったからです。

・北広島町は自然がたくさんだなと思いました。自然の中でジップラインなどができることがいいな、と思いました。

・ジップライン体験で最初は緊張していたけど、何回かやっているうちに楽しくなってきたことや、友達とミッション（手をつなぐ）をしたことが心に残りました。

・ユートピアサイオトはスキー場だけど、雪がない時期にはジップラインが楽しめるので、工夫されているなと思いました。

○芸北 高原の自然館・八幡高原（おーいの丘）

・あまり知らない花や草を知れて楽しかったです。

・もっと花の名前を知って、花の物知りになりたいです。

### 4. 活動を終えて

当初9月に予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大及び天候不順の影響により、10月の実施となった。しかし、秋深まりゆく芸北を堪能することができた。どの見学地も、担当の方が丁寧に対応してくださり、児童は興味・関心をもって見学・体験することができた。北広島町のよさを感じることができ、これから北広島町や自然のことについてもっと知りたい、と意欲が高まっている様子だった。



【ユートピアサイオト】



【ユートピアサイオト】



【芸北高原（おーいの丘）】



【芸北高原（おーいの丘）】

# 令和4年度北広島ふるさと夢プロジェクト 4年生 活動報告

芸北小学校

## 1. 実施した活動について

【期日】 令和4年10月21日（金）

【場所】 大朝のテングシデ群落・オオアサ電子株式会社  
北広島町図書館・上本家住宅・ちゅピCOM

【人数】 児童12名 引率2名

【ねらい】

「ふるさとを知り、ふるさとを愛し、将来ふるさとに住みたい、ふるさとに帰りたくなる子どもの育成」という事業目的を達成するために、町内をめぐり、「お宝」を発見することで町の良さに気付いたり自分の将来について考えたりする。

## 2 活動の様子

「大朝のテングシデ群落」では、遺伝子変異によって曲がりくねった枝を見ることができました。地域の人がこのシデを「テングシデ」と名付けて守ろうとするなど地域の人の思いも知ることができました。「オオアサ電子株式会社」では、全方位型のスピーカーの迫力ある音を聞き、液晶ディスプレイを作っているところを見せていただきました。画面が浮かび上がる映像には、みんなびっくりしていました。

「北広島町図書館」では、館内の説明を聞いた後、それぞれがお気に入りの本を借りました。たくさん本があり、どれを借りるか迷いました。「上本家住宅」では、お弁当を食べました。武一騒動の発端の場所であることを初めて知りました。「ちゅピCOM」では、スタジオ見学をした後、生放送のリハーサル風景を見学させていただきました。タレントのテンション高野さんが気軽に声をかけてくださり、サインもいただくことができました。

## 3. 児童の感想

10月21日に夢プロジェクトの町内たんけんをしました。最初に、テングシデ群落を見に行きました。テングシデは、ぐにゃぐにゃに曲がっていて、どうやったらあんな形になるのか不思議に思いました。ハートの形のえだがあるときいていたので、必死で探してみると、不安定な形だったけどそれっぽいえだを見つけられただけでも嬉しかったです。次に、オオアサ電子に行きました。Egretta（スピーカー）を作っているところやショールームは日本の色んな所にあると言われて、驚きました。この後、ちゅピCOMに行きました。光ケーブルは細いケーブルの中の更に細いケーブルの中に入っていたのでびっくりしました。

## 4. 活動を終えて

各見学場所では、丁寧な説明を受け、充実したふるさと夢プロジェクトになりました。児童達にとっても有意義な活動となり、自分の将来を考えるきっかけにもなったと感じました。



【大朝のテングシデ群落】



【オオアサ電子株式会社】



【北広島町図書館】



【ちゅピCOM】  
(リハーサル風景)

# 令和4年度北広島ふるさと夢プロジェクト4年生 活動報告

大朝小学校

## 1. 実施した活動について

- 【期日】 令和4年10月25日(火)
- 【場所】 北広島町まちづくりセンター・ちゅピCOM  
芸北民俗芸能保存伝承館  
KumahiraPark 北広島(千代田運動公園)
- 【人数】 児童 9名 引率 2名
- 【ねらい】

北広島町の各施設で職員の方の話を聞いたり、仕事の様子を見たりすることを通して、施設や仕事の工夫、自分たちの住む町の魅力を見つける。



【北広島町まちづくりセンター】

## 2 活動の様子

「北広島町まちづくりセンター」では、訪れた人が利用しやすくなる館内の工夫を聞き、仕事における相手意識の大切さを学ぶことができた。「ちゅピCOM」では、グループに分かれて原稿作成やカメラ撮影などを体験して、番組制作の流れを知ることができた。「芸北民俗芸能保存伝承館」では、館内や展示品の説明から北広島の歴史や文化を学んだ。「KumahiraPark 北広島(千代田運動公園)」では、施設の使い方や働く人の仕事内容について知ることができた。



【ちゅピCOM】

## 3. 児童の感想

- まちづくりセンターでは、各部屋で呼び方が決まっていたびっくりしました。町内の方が利用しやすくなる工夫がたくさんあり、勉強になりました。
- 普段見ている番組は、カメラ撮影だけでなく、原稿作成や編集など多くの時間を使って作られているということを知りました。
- 芸北民俗芸能保存伝承館を見学して、初めて知った北広島町の歴史や文化があり、勉強になりました。神楽や花笠おどりなどについて詳しく調べてみたいです。
- KumahiraPark 北広島(千代田運動公園)には、いろいろなスポーツができるようたくさんの施設があることやそのために管理をしていることを知りました。



【芸北民俗芸能保存伝承館】

## 4. 活動を終えて

地域のことについて調べていたが、実際にその施設を訪れ、地域のことについて詳しい人から話を聞いたり、仕事を体験したりしたことで、児童は北広島町の魅力や施設の工夫を具体的に感じることができた。



【KumahiraPark 北広島】  
(千代田運動公園)

豊平小学校

1. 実施した活動について

【期日】 令和4年10月25日(火)

【場所】 芸北民俗芸能保存伝承館、オオアサ電子株式会社  
北広島町まちづくりセンター  
大朝のテングシデ群落

【人数】 児童19名 引率2名

【ねらい】

町内の自然を生かした体験や町内の施設の見学を通して、ふるさとの良さを実感させる。

2 活動の様子

当日は、少し雨が降る肌寒い日でした。豊平小学校は千代田・大朝地域に行きました。

千代田地域では、芸北民俗芸能保存伝承館と北広島町まちづくりセンターを見学しました。民俗芸能保存伝承館では、北広島町の稲作と関わりのある伝統文化について季節ごとに学びました。北広島町まちづくりセンターでは、施設内の部屋の役割や利用等について学びました。

大朝地域では、大朝のテングシデ群落とオオアサ電子株式会社を見学しました。大朝のテングシデ群落では、テングシデの由来などについて教えていただき、テングシデの幹の太さを実感できる貴重な機会もいただきました。オオアサ電子株式会社では、スピーカーで実際に音楽を聴いたり、映画を見たりして、日頃耳にしている音との違いについて学ぶことができました。

3. 児童の感想

- ・トラクターが昔はなかったから、人より力が強い動物の牛を利用していたことが分かった。(芸北民俗芸能保存伝承館)
- ・まちづくりセンターは行ったことがあるけれど、知らないことがいっぱいあった。(北広島町まちづくりセンター)
- ・テングシデでは、てんぐが羽をシデの木で休めたという言い伝えからテングシデという名前がついたことが分かった。(大朝のテングシデ群落)
- ・イヤホンをしていないのに、イヤホンからの音みたいに聴こえたのがすごかった。(オオアサ電子株式会社)

4. 活動を終えて

北広島町について子どもたちはよく知っていると言っていました。まだまだ知らなかった北広島町のお宝を知ることができました。今回巡った場所以外の北広島町のお宝を探したいと言っている児童も多くいました。学校では「お宝発見ツアー」での学びを川柳で表現します。

- ・エグレッタ しっばい重ねて 完せいだ(オオアサ電子株式会社)



【芸北民俗芸能保存伝承館】



【北広島町まちづくりセンター】



【大朝のテングシデ群落】



【オオアサ電子株式会社】



【川柳】





# 5年生 「民泊体験」～北広島のよさを満喫しよう～



田舎暮らし体験



体験活動



つかみ取り  
体験  
釣り

# 北広島ふるさと夢プロジェクト事業〔5年生〕実施要項

## 「民泊体験」～北広島のよさを満喫しよう～

- 1 期 日 Aチーム 令和4年6月14日～令和4年6月16日  
 Bチーム 令和4年7月12日～令和4年7月14日  
 Cチーム 令和4年7月20日～令和4年7月22日  
 Dチーム 令和4年9月13日～令和4年9月15日  
 →Dチーム 令和4年11月14日～令和4年11月16日に延期  
 Eチーム 令和4年11月8日～令和4年11月10日

場 所 芸北文化ホール，芸北オークガーデン，大暮養魚場，芸北地域民宿等  
 ※芸北小：豊平地域民泊，そばうち体験，色えんぴつ製作等実施

〔芸北文化ホール〕

〒 731-2323 広島県山県郡北広島町川小田 10075-54

TEL 0826-35-0070

〔芸北オークガーデン〕

〒 731-2322 広島県山県郡北広島町細見 145-104

TEL 0826-35-1230

〔大暮養魚場〕

〒 731-2204 広島県山県郡北広島町大暮 85-3

TEL 0826-38-0734

### 2 目 的

- 自然の中での共同体験を通して，課題解決する力や協働する力を養う。
- 町内の自然を生かした体験活動や民泊等の地域の方とのふれあいをとおしてふるさとのよさを実感させる。

### 3 対象児童 小学校5年生 132名

	Aグループ		Bグループ		Cグループ	Dグループ	Eグループ		
	6月14日～16日		7月12日～14日		7月20日～22日	9月13日～15日	11月8日～10日		
学校名 (割当)	A 豊平小	B 八重東小	A 新庄小	B 大朝小	芸北小	八重小	A 壬生小	B 本地小	計
男子	10	7	6	7	7	18	13	7	75
女子	8	9	5	5	1	16	8	5	57
児童数	18	16	11	12	8	34	21	12	132
班 児童数	3班 18名	3班 16名	2班 11名	2班 12名	1班8名	5班34名	3班 21名	2班 12名	21班 132名

### 4 日 程

#### (1) 1日目「対面式」

各学校より芸北文化ホールへの集合 [A:大2 B:小2 C:小1 D:大1 E:大1小1]

(芸北小学校は豊平地域づくりセンターへ集合)

A: 豊平小 [13:15] =大型バス (18+先生)

A: 八重東小 [13:00] =大型バス (16+先生)

B: 新庄小 [13:05] =小型バス (11+先生)

B: 大朝小 [13:10] =小型バス (12+先生)

C: 芸北小 [13:20] =小型バス (8+先生)

D: 八重小 [13:05] =大型バス (34+先生)

E: 壬生小 [12:55] =大型バス (21+先生)

E: 本地小 [13:00] =小型バス (12+先生)

※13時45分頃に会場に到着できるように，計画を立てる。

## 対面式・1日目の活動の流れ

各校 ～13:45 到着

各学校よりバスで対面式会場に到着後、ホール後方に荷物を置く。

13:45～14:00 準備・整列

14:00～14:30 対面式

①開会

②北広島町代表挨拶（役場支所長）

③学校代表挨拶

④児童代表挨拶

⑤受け入れ家庭紹介（観光協会スタッフ紹介）

⑥学校引率者紹介

⑦教育委員会職員紹介

⑧受け入れ家庭とのお互いの自己紹介

⑨閉会

14:30～受入家庭への受け渡し

(2) 2日目「せどやま体験」（雨天の場合も変更なし）（芸北小学校をのぞく）

各家庭 ～ 9:30 芸北オークガーデンに集合（学校ごとにまとめて荷物を置く）

9:15～ 9:30 児童到着後、各学校ごとに荷物を置く。

9:30～ 9:45 活動班ごとに整列後、学校ごとに健康観察（体温測定）をする。

全体への指導並びに安全指導・確認、並び順の確認をする。

9:45～15:20 せどやま体験進行

【開会】

①開会②学校代表挨拶③児童代表挨拶④指導者より挨拶（スタッフ紹介含む）

【せどやまスタッフ進行】

⑤せどやま事業の紹介：資源・エネルギーについて⑥ボイラー、せどやま市場見学⑦午前中の作業（様子を見て、適宜休憩）⑧昼食⑨午後の作業（様子を見て、適宜休憩）⑩片付け

【閉会】

⑪学校代表挨拶⑫児童代表挨拶⑬指導者より挨拶⑭閉会

※参加に際して児童に持たせたい目的意識：「エネルギーや地球温暖化について学び、自分自身ができることを広げよう」

NG1：インセンティブの提示 ex)「せどやま券がもらえるよ」

NG2：他の班や人との過度な比較 ex)「〇〇さんの方が上手」

○閉会后、芸北ドルチェ前でせどやま券配布。

【重要】せどやま券使用については児童に伏せる）→受入家庭が来るまで待機する。

15:20～15:30 受け入れ家庭への受け渡し（芸北オークガーデン入り口駐車場）

受入家庭の迎えを待ち、来た順番に随時受け渡し実施

○雨天の場合のみ長靴を履いてくる。

## 芸北小学校

各家庭 ～ 9:50 受入家庭の自家用車でどんぐり村そば道場へ

10:00～10:15 児童到着後、活動班ごとに荷物を置く。

10:15～10:30 活動班ごとに整列後、学校ごとに健康観察（体温測定）をする。

全体への指導並びに安全指導・確認、並び順の確認をする。

10:00～13:00 そばうち体験進行（体験時間約1.5時間（昼食時間除く））

①開会②学校代表挨拶③児童代表挨拶④指導者より挨拶

⑤そばうち体験⑥昼食⑦片付け⑧学校代表挨拶⑨児童代表挨拶⑩指導者より挨拶⑪閉会

13:00～13:15 移動（バスでろうきん森の学校へ移動）

13:15～15:15 色えんぴつ製作体験（体験時間約2時間）

①開会②学校代表挨拶③児童代表挨拶④指導者より挨拶⑤木工クラフト体験⑥片付け⑦

学校代表挨拶⑧児童代表挨拶⑨指導者より挨拶⑩閉会

15:15～15:30 整列（持ち物の確認をする）

15:30～ 受け入れ家庭への受け渡し（ろうきん森の学校）

受入家庭の迎えを待ち、来た順番に随時受け渡し実施

(4) 3日目「川魚つかみ取り(釣り)体験」

各家庭 ～8:45 芸北文化ホールに集合

児童到着後、ホール後方に荷物を置く。

8:45～ 9:00 準備・整列(民泊家庭ごと)

9:00～ 9:30 お別れ式

① 学校挨拶

② 児童代表挨拶

③ 北広島町代表挨拶(役場支所長等)

④ 閉会

※お別れ式閉会后、写真撮影を行う。(全体集合写真→各学校毎→民泊家庭毎)

※受け入れ家庭との個別の挨拶は各自で行う

※閉会后、写真撮影を実施(指示は町教委が行う)

9:30～ 9:45 バスに乗って大暮養魚場へ移動

9:45～10:00 到着、整列

※バスで大暮養魚場に到着後、並び順を確認し、活動班ごとに整列。

※児童の準備物はしおりを参照

10:00～13:20 川魚つかみ取り(釣り)体験進行

【開会】

①開会②学校代表挨拶③児童代表挨拶④指導者より挨拶

【大暮養魚場スタッフ進行】

⑤養殖の説明・施設見学⑥炭おこし⑦つかみ取り(釣り)【1人2匹】⑧アマゴ調理(割箸を使ってはらわたを出す)

※調理中に気分が悪くなる可能性があるため、事前に体験内容の共有をしてもらう

⑨すみ火で焼く⑩昼食(アマゴ2匹、おにぎり、味噌汁)⑪片付け

【閉会】

⑫学校代表挨拶⑬児童代表挨拶⑭指導者より挨拶⑮閉会

※活動班に分かれて活動する。

※魚を焼く囲炉裏は、各班で1つ使用。(最大12人程度座れる広さあり)

※雨天の場合は、屋根がついているところを利用

○体験時間に余裕があるので、児童主体で進めていくといい。(タイミングを見てスタッフがサポートする)

13:20～13:30 休憩・整列(活動班ごと)

○持ち物の確認をすること。

13:30～ 各校へ出発 ～ 帰校

※バスで各学校に帰る。

**芸北小学校**

各家庭 ～ 8:45 豊平地域づくりセンターに集合

児童到着後、ホール後方に荷物を置く。

8:45～ 9:00 準備・整列(民泊家庭ごと)

9:00～ 9:30 お別れ式

9:30～10:00 バスに乗って大暮養魚場へ移動

10:00～10:10 到着、整列

10:10～13:20 川魚つかみ取り体験進行

13:20～13:30 休憩・整列(活動班ごと)

13:30～ 帰校

**5 会場・準備物等**

(1) 開会式・閉会式

【町教委】

・横看板「北広島ふるさと夢プロジェクト(小5)「民泊体験」～北広島のよさを満喫しよう～

(2) 活動(せどやま体験・川魚つかみ取り(釣り)体験)

○当日までの準備・対応

<各学校>

・デジタルカメラ(各学校最低1個は持参)

・救護用品<簡易バッグ>

・探検バッグ(せどやま体験、川魚つかみ取り(釣り)体験で児童がメモをする用)

<観光協会>

- ・スポーツドリンク配布（せどやま体験時）
- 児童の持参物・服装
  - ・ガムテープによく見えるように、学校名・名前を書き、胸前にはる。
  - ・筆記用具 ・水筒・タオル・帽子・軍手・はきなれた靴
  - ・カッパや傘（状況に応じて前日に指示）
  - ・敷物
  - ・服装ー長袖・長ズボン（私服可）

(3) 昼食

【観光協会】弁当

- 2日目（せどやま体験）の昼食
- 3日目（大暮養魚場）の昼食

(4) 費用について

全体 22,637円 個人 8,000円 町 14,637円

【重要】キャンセル時の費用負担について

キャンセル料について、民泊実施前日（11:00まで）までに教育委員会へ連絡があれば、キャンセル料はかからない。ただし、民泊実施前日11:00を過ぎた場合、キャンセル料がかかり、個人負担額は5,000円になる。（せどやま体験分を除いた金額）

【共有】引率者（教職員）の食費、宿泊費について（注文された方のみ）

昼食代として、2日目せどやま体験時弁当650円、ジェラート330円、3日目大暮養魚場昼食1,100円がそれぞれかかる。宿泊費は実費。（後日学校ごとにまとめて請求）

※宿泊費は各学校毎に出張処理とする。

7 役割分担及び安全管理・安全指導（計画策定委員会を中心に企画・準備）

○新型コロナ感染防止・安全対策ガイドライン（民泊用）を参考に、活動を行う際は、感染対策を十分に行うこと。

○外部関係機関との渉外（町教委<松長>）

○教育委員会届出（各学校） ○保護者通知（豊平小→各学校） ○会計（町教育委員会）

○体験活動のしおり（豊平小→各学校）

○割当に関して

- ◆対面会進行<各グループで割当> ◆対面式校長代表挨拶<各グループで割当>
- ◆お別れ式挨拶・謝辞<各グループで割当> ◆児童代表挨拶（閉会）<各グループで割当>

○報告書製作（教育委員会・豊平小）

- ◆プロジェクトのねらい
- ◆活動の内容・様子ー写真入り、A4で1枚程度にまとめる。
- ◆記録用写真撮影<各学校>
- ◆作文<各学校1人ー400字原稿用紙で2枚程度>  
学校ごとに指導して製作し、データを教育委員会へ送付
- ◆実施後のアンケート結果は学校ごとに集計して、11月30日に（共有フォルダー）へ添付
- ◆活動の様子、作文は、1月13日までに製作してデータを送付
- ◆夢プロだより（民泊）は豊平小担当・・・12月配布予定

○安全についての指導（各校で事前学習を行う）

・交通安全・生活安全（動物・植物等について、熱中症等）・災害安全（大雨・雷・洪水）

○民泊についての総括（豊平小）

8 今後の予定（課題事項）

○実施計画をもとにグループごとの引率者の打ち合わせ会を行なう

○配慮を要する児童（持病・アレルギー・人間関係その他）の連携方法は：各校⇒受入家庭  
自己紹介カード、健康カード、アレルギーアンケート等を使う

○参加費の徴収について・・・実施後に町教委より各校へ請求される

9 その他

提出する書類・事前学習や確認に活用する資料

【学校提出書類】

体験申込書・高速バス配車手配表・食事手配希望表・引率教員部屋割・民泊割り当て表・受入家庭あて書類送付用リスト・体験の班分け・緊急時関係者連絡網・体験活動のしおり（児童用・指導者用各1部提出）・受入家庭プラカード・

【学校で製作・活用】提出書類チェック表・持ち物チェック表

**児童・保護者の準備物** ※出発時の服装については、各学校で協議する。

〔服装〕：長袖体操服（上下），体操服かTシャツ（半袖・上），赤白帽，はき慣れた運動靴  
〔持ち物〕 ※その他，必要なものがあれば，各校で加える。

服装・着替え（基本）		日用品		その他
上着類 （2日分）	シャツ（半袖もしくは長袖）	洗面用具	歯ブラシ	リュックサック  （弁当・水筒が入るサイズ）
	ズボン（くるぶしまで隠れるもの）		歯磨き粉	
	防寒用上着（平均気温8度）		タオル	
下着類 （2日分）	シャツ	マスク（予備含め5枚）		虫除けスプレー・ジェル※ 十分に用意
	パンツ			虫さされ薬※体に合うものを十分に用意
◆【せどやま体験用】長袖・長ズボン（私服可）		ハンカチ（3日分） ティッシュ（3日分）		水筒（ペットボトル不可・大きすぎないもの）
◆【川魚つかみ取り（釣り）用】 長袖体操服か長Tシャツ（上）・長ズボン		タオル（5～6枚）		エプロン・三角巾
帽子（赤白帽）		ビニール袋 必要枚数 （着替え入れ・ごみ）		体験活動のしおり
くつ下（4日分）		軍手（滑り止めのついていない木綿のもの3セット【田舎暮らし体験，せどやま体験，川魚釣り用】		筆記用具
運動靴（履き慣れたもの）				常備薬  （必要に応じて）
濡れてもよい運動靴かシューズ 【川魚つかみ取り（釣り）用】×サンダルは不可				
長靴（林業・農業体験等で使用）		雨具  （両方）	カップ	
寝間着（ジャージ・パジャマ）			かさ	

※全ての持ち物に名前を書く。（袋にも名前を書いておくこと）

10 ご協力をお願い

【報告書・夢プロ便り製作】

○報告書

◆次の内容の報告書を製作

【内容】プロジェクトのねらい，実施計画

活動の内容・様子 <写真入りで，概要をまとめる>

児童の作文<各学校1人-400字原稿用紙で2枚程度>

実施後のアンケート結果（保護者アンケート結果は町教委で取りまとめる）

○夢プロ便り

◆実施後に，夢プロ便りを製作する。フォーマットは令和3年度のものを使用

【事後指導】

○民泊家庭に対し，事後学習の際に，手紙や色紙等でお礼を言える機会の検討

【アンケート（児童・保護者）】

◆実施後に，ねらいが達成できたか評価したり児童の思いを把握したりするために，アンケートを実施

・ふるさと夢プロジェクト事業児童アンケート（GoogleForm）※事前に学校に共有

・ふるさと夢プロジェクト事業保護者アンケート（GoogleForm）※事前に学校に共有

11 その他

○プロジェクトの趣旨を踏まえて，児童に目的意識を持って参加させるようにする。

○保護者案内は，提出日を目安に学校ごとに製作して配布する。

○特別な支援を必要とする児童，健康に留意する必要がある児童については，事前に保護者と連携をしておくとともに，教育委員会とも連携を取りながら引率職員体制について配慮する。学校側で必要があると判断した場合，児童提出書類提出時に早めに共有を行う。

## 新型コロナウイルス感染防止・安全対策ガイドライン（民泊用）

## 【児童・先生】

- ①発熱・咳・寒気・悪寒・筋肉痛・頭痛・のどの痛み・味覚または嗅覚の異常等の感染症状を民泊実施前と民泊実施当日および民泊前日に確認してください。
- ②家庭到着後に症状が現れた場合、その時点で民泊家庭から離れて医療機関にて診断を受けてください。
- ③誤った申告を防ぐ意味で前日の保護者確認署名をお願いします。
- ④児童には①の条件を徹底し、併せて確認する。可視化する目的で健康チェックノートを製作すること。
- ⑤外部の人との接触時にはマスクを着用し、予備のマスクも用意してください。
- ⑥民泊家庭到着前の確認は引率教員が行ってください。その後は児童自身が記入し滞在先の家庭で確認してください。（体温計は民泊家庭常備しています）
- ⑦滞在中の民泊家庭から（手洗い・うがい・社会的距離・マスク着用・その他）感染防止に対する指示があったときは速やかに従う事を事前指導で徹底してください。
- ⑧児童・児童と受け入れ家庭の双方の命に関わることであり、虚偽の申告が絶対無いよう事前指導を徹底してください。
- ⑨事後確認として体験活動終了後2週間以内に当該児童が新型コロナ陽性になった場合は、速やかに北広島町教育委員会に連絡してください。

## 【(参考) 受け入れ家庭 感染防止対策内容】

- ①手洗い用のプッシュ式洗剤、除菌用アルコール消毒液の用意
- ②フェイスタオルの人数分用意（滞在中個人管理とする）
- ③体温計を常備する。
- ④健康確認チェックリスト(日次)で家族の健康状態をチェックする。

## 【感染予防で気をつけること】

- ①洗面や手洗いは場所を定めておく。洗剤や消毒液うがい薬を置く。
- ②寝具については、使用前後に天日干しや布団乾燥機を利用し清潔にしておく。
- ③客間も使用前後に掃除機後に雑巾や畳拭き用ウエットシートにて拭き取ること。
- ④食事等長時間同一の部屋に滞在する場合は部屋の換気を徹底して行う。換気回数を毎時2回以上（30分に一回以上、数分間程度、窓を全開する）とする。空気の流れを作るため、複数の窓がある場合、二方向の壁の窓を開放すること（窓が一つしかない場合は、ドアを開けること）。
- ⑤食事の際は、鍋料理・大皿盛り等は避け、各人にあらかじめ取り分け一人盛りとし、食事する際にはテーブル上にパーティションを設置する。
- ⑥食事場所の換気が十分行えない場合は、食事は家主・児童別々（時間を分ける等）で取る。

# 「民泊体験～北広島のよさを満喫しよう～の活動の様子

活動内容	活動の様子
<p>【Aグループ】（八重東小・豊平小）6月14日～6月16日 「民泊体験」</p> <p>民泊家庭でのしたことのない田舎生活体験（木工細工，野菜収穫，夕食づくり）を楽しみました。</p> <p>初めてピザを作りました。とても楽しくておいしかったです。</p> <p>「せどやま体験」</p> <p>せどやま体験で間伐材を丸太や薪に加工しました 木を切るのは思ったよりも大変だったです。</p> <p>「川魚つかみ取り体験」</p> <p>大暮養魚場での体験活動。初めて川で魚をとったので楽しみました。生きていた魚に感謝しながら，おいしくいただくことができました。</p> <p>マッチで火をつけるのも初めてだったので，火を起こすのも良い体験になりました。</p>	
<p>【Bグループ】（大朝小・新庄小）7月12日～7月14日 「民泊体験」</p> <p>普段は体験できないことを各家庭でさせていただきました。この体験を経て，民泊家庭の方とコミュニケーションをとることができました。</p> <p>「せどやま体験」</p> <p>せどやま市場では，薪を一日中切りました。エネルギーの大切さを身をもって体感した児童たちでした。</p> <p>「川魚つかみ取り体験」</p> <p>魚のつかみ取りや養魚場の施設見学を通して「命のつながり」を学びました。魚の内臓を割りばしでとりのぞくことも初めての経験でした。</p>	



活動内容	活動の様子
<p>【Cグループ】(八重東小・豊平小) 7月20日～7月22日</p> <p>「民泊体験」 自分たちで切り出した竹や民泊家庭で飼っている鶏の卵を使ってバームクーヘンを作ったり、木を削ってキーホルダーを作ったりしました。</p> <p>「色えんぴつ作り」 五感を使っていろいろな木や葉っぱを見つけたりして楽しみました。自分の好みが出る色鉛筆を作れました。</p> <p>「そばうち体験」 そば道場での体験活動。そば粉から手打ちそばを作りました。予想以上に難しく、細い麺や太い麺ができていました。しかし、味はとても良く、みんなでおいしくいただきました。</p>	
<p>【Dグループ】(八重小) 11月14日～11月16日</p> <p>「民泊体験」 温かく迎えてくださった民泊家庭の方との交流が何よりもの思い出です。普段はしない手伝いができたり初めての体験ができました。</p> <p>「せどやま体験」 森のエネルギーを人間が使うエネルギーにするために、木を切る、割る、運ぶ。自然を相手にたくさん働きました。</p> <p>「川魚釣り体験」 自分の命のために、自分で魚を釣り、自分で調理し、自分の栄養とする…。「命をいただく」ことについて改めて考えることができた3日目でした。</p>	
<p>【Eグループ】(壬生小・本地小) 11月8日～11月10日</p> <p>「民泊体験」 各受入家庭では、普段、家ではできない貴重な体験をさせていただきました。</p> <p>「せどやま体験」 どうやったら切りやすいのか、うまくいくのか・・・グループで協力して活動しました。作業後のジェラートはとても美味しかったです。</p> <p>「川魚釣り体験」 普段マッチを使うこともない子供たち。初めての火起こしに四苦八苦。仲間と知恵を出し合い、サポートの方のヒントを頼りに何とか着火。命の話を聞き、「命をありがとう」と思いながらのはらわた処理。「知っている」に実体験が重なり、「いただきます」の声にも思いがこもった体験活動となりました。</p>	

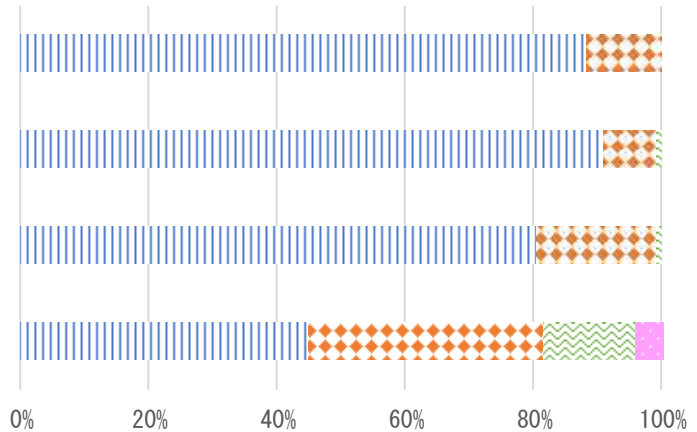
## プロジェクトを終えての「児童アンケート」結果（5年）

(1) ふるさと夢プロジェクトに参加して良かった。

(2) ふるさと夢プロジェクトで、いろいろな体験ができてよかった。

(3) 北広島町が好きである。

(4) 将来、北広島町に住みたいと思う。



|| よくあてはまる ◀ だいたいあてはまる ▲ あまりあてはまらない ■ ぜんぜんあてはまらない

### 民泊体験・田舎暮らし体験をして、思ったこと考えたことを書いてください（抜粋）

#### 芸北小学校

○北広島町の自然や伝統を守りたい。  
 ○わからないことは自分から聞くことが大事。これからの生活の中でわからないことがあったら、自分から聞いて解決していきたい。  
 ○北広島町の知らないことが知れてよかった。  
 ○違うところで寝ることがちょっと怖かった。  
 ○家の近くには言いえない生き物がいてすごかった。  
 ○みんなで協力すればいろいろなことが楽しくなる。  
 ○家ではやらないことができて楽しかった。

○鶏や山羊を飼うことは大変だ。  
 ○自然があれば大好きな工作ができる。  
 ○山羊に感情を表す動作がありびっくりした。  
 ○プリンやバームクーヘンがおいしかった。  
 ○鶏の卵の回収やえさやりが大変だったが楽しかった。  
 ○ヒヨコがいる卵といない卵とで分かれていて不思議に思った。  
 ○卵をとってもたくさん産んでいてびっくりした。

#### 大朝小学校

○民泊先の家で協力して料理を作ったりお家の手伝いをしたことが心に残った。  
 ○野菜を採ったり、犬の散歩をしたりして楽しかった。  
 ○楽しかった。来てよかった。  
 ○将来、民泊があったら、受け入れてみたいと思った。  
 ○とても自然豊かで気持ちいい。

○小動物よけでどうやったらはやくできるかを考えた。  
 ○また、行って今回やった活動、体験をやってみたい。  
 ○木の仕組みや、魚のとり方いろいろと知れてうれしかったです。  
 ○みんなで、ピザを作るのが楽しかったです。

#### 新庄小学校

○民泊家庭の方がすごく優しくて接しやすかった。  
 ○民泊をして北広島町をもっと好きになった。  
 ○草を集める作業だったり野菜づくりと色々大変だと感じた。  
 ○一人ではとても無理な仕事を毎日頑張っている人達がいる。  
 ○民泊家庭の方ががすごく優しくったからじゃがいも掘りなどをさせていただけました。楽しかった。  
 ○自分達でだいたいやるんだと思った。

○染め物を初めてしてとても楽しかった。自分の家でもやってみたい。  
 ○普段田んぼの周りの草集めをしたりしなかったので、いい体験になった。  
 ○家ではできていないことをさせてもらったので嬉しかった。  
 ○田舎暮らしをして、お手伝いが、楽しいなと思った。民泊体験で、メモをしなかったけど、いろんなことが分かって面白かった。

八重小学校	
<p>○北広島の人みんな優しくて笑顔いっぱい。</p> <p>○田舎は豊かで気持ちいいところだなーと思った。</p> <p>○北広島はこんなに広かったのかと思った。</p> <p>○こんなに家事が大変なことがよくわかった。</p> <p>○こんなに静かなところだったというところ。</p> <p>○自然のちからを使って暮らしていたのがすごかった。</p> <p>○より自然なところに行けて良かったです。</p> <p>○僕たちが知らない生活だったので、わくわくした。</p>	<p>○民泊体験でも、みんなで手伝いをしたり自分から行動できた。</p> <p>○田舎暮らし体験で赤大根の収穫をしたときに思ったよりも簡単に抜けたなと思った。</p> <p>○普段はしない手伝いなどができたことと初めてする体験ができたこと。</p> <p>○料理をやってみて自分は意外とできるんだなあと思った。</p>
八重東小学校	
<p>○北広島町のよさなどを知ることができたし、もう一度行きたくなった。</p> <p>○民泊体験では、作ったことのないピザ作りをして、すごく楽しかった。</p> <p>○民泊体験では、全部が手作りだったのでお母さんの料理の手伝いができると思った。</p> <p>○北広島町は民泊体験や田舎暮らし体験ができることを知ることができて良かった。またしたいと思った。</p> <p>○やったことがない体験をさせてもらって嬉しいと思った。</p>	<p>○田舎暮らし体験で、マリーゴールドを植えるとき、土をたくさん混ぜて土を作るという作業が難しかった。</p> <p>○僕も野菜を育てようと思った。</p> <p>○お風呂掃除や料理づくりは、とても難しくて、将来に役立ちそうだなと思った。</p> <p>○自分たちで採った野菜を収穫して食べたらすごく美味しかった。</p> <p>○みんなと一緒にご飯を食べたり2人で協力して、皿洗いなどをして家族だと思えた。</p>
壬生小学校	
<p>○参加できてよかった。民泊に来て良かった。</p> <p>○みんなでごはんを食べれて美味しかった。</p> <p>○自分自身が大きくなった。</p> <p>○どこにいてもどんな場所でもみんなの接し方は変わらなく知らない人でも気軽に話しかけていて凄くいいなと思った。</p> <p>○芸北にこんなところがあったんだ。</p> <p>○同じ町内でも朝は違ってびっくりした。</p> <p>○風景がきれいだった。</p>	<p>○楽しかったいろいろな体験ができてよかった。</p> <p>○壬生とは違う遊びや体験ができて楽しかった。</p> <p>○みんなで協力したり、課題解決したりして、協働する力、課題解決力が身についた。</p> <p>○田舎暮らし体験は楽しいし色々な事がわかった。</p> <p>○協力するのはとても大切だとおもった。なので、これからもみんなと協力できたらいいなと思った。</p> <p>○色々な人と出会ったり何かで協力するとゆうことがそんなにできていなかったからいい体験をしたと思った。</p>
本地小学校	
<p>○夜、月がきれいで、とてもすごいと思った。自分の千代田地域でも月がきれいに見えるといいなと思った。</p> <p>○友達と料理や掃除をして、もっと仲が深まったり協力できたりした。</p> <p>○お風呂掃除や皿洗い、ごはん作りなど、「家事」をして、大変な仕事を毎日しているんだと分かり、手伝おうと思った。</p> <p>○自分の家のルールと民泊先の家の人のルールが違ったので、いつもと違っていて難しかった。各家ごとにルールが違うのだなと思った。</p>	<p>○千代田ではあまりできない収穫などができたのでいいなと思った。</p> <p>○自分が住んでいる本地と比べて、自然が豊かで、少し寒かったので、違うんだなと思った。</p> <p>○いろいろな所に行けたり、たくさん物を作ったりできて楽しかった。楽しいことがたくさんあったから、さらに北広島町が好きになった。</p> <p>○田舎暮らし体験をして、知らない人とだんだん仲良くなるという体験をまたしたいなと思った。</p>

豊平小学校	
<p>○民泊家庭の方がとてもやさしく、とても心に残る体験ができた。</p> <p>○みんなで寝たり、ご飯を食べたりして、みんなとの絆が深まった。</p> <p>○北広島町の良さが思っていた以上にあることが知ることができた。</p> <p>○家で体験できないことができて、もっと北広島町の良さを知りたいと、思いました。</p> <p>○北広島町の良いところがわかった。特に、民泊体験で貴重な体験ができて、北広島町がとても好きになった。</p>	<p>○料理の作り方の一部がわかった。</p> <p>○僕達もやらない牛の移動や牛の餌やりをしたことが楽しかった。</p> <p>○牛の移動、木の削り方、木のヤスリの仕方などをして、田舎の良さがとても良く前よりわかった。</p> <p>○モグラ対策を作って楽しかったし、こんな作り方もあるんだ、と学ぶこともできた。</p> <p>○知らない人との関わり、料理づくりなどの体験をとおしてとても自分が成長したと思った。</p>

体験活動（川魚つかみ取り体験・せどやま体験・そばうち体験・色えんぴつ製作等）をして、心に残っていることはどんなことですか（抜粋）	
芸北小学校	
<p>○そばの生地を作ること。</p> <p>○自分の好みが出る色鉛筆を作れたこと。</p> <p>○色鉛筆づくりで見慣れない道具を使ったこと。</p> <p>○そば打ちは難しかったが、おいしく食べることができたこと。</p> <p>○色鉛筆づくりの時に、五感を使っているような木や葉っぱを見つけたり楽しんだこと。</p>	<p>○つかみ取りで大暮の歴史を知れたこと。</p> <p>○アマゴの内臓を抜き出すこと。</p> <p>○芸北サーモンの育て方。</p> <p>○自分たちでとって焼いたアマゴがおいしかったこと。</p> <p>○つかみ取りで捕まえることができてうれしかったこと。</p>
大朝小学校	
<p>○せどやま体験で、木を沢山切ったことです。木を切っていると段々と疲れが溜まっていくけど、最後まで頑張ってきたので、良かった。</p> <p>○せどやま体験で、みんなで協力して木を運んだり、まきを割ったりするのが心に残った。まきは、自分で割るのかと思ったけど、機械で割ったのが楽しかったし面白かった。終盤の方では、太い木でもすぐ、みんな切れるようになった。担当の方も、みんなのことを「上手」と褒めていたから、驚いた。まきを割って、四班まで回ると白い箱がいっぱいになっていたのがすごいと思った。</p>	<p>○せどやま体験で木を切るときに、切る人はきって、おさえる人はおさえてって、役割分担できたので良かった。</p> <p>○炭を起こすときに、みんなで協力できたから良かった。</p> <p>○川魚のつかみ取りで新庄小学校の人たちと協力できたし大暮養魚場の人に命の大切も教えてもらっていい体験になったと思う。</p> <p>○川魚のつかみ取りが心に残りました。どうしてかという最初はつかめなかったけどあとからたくさんとれたのがうれしかったです。</p>
新庄小学校	
<p>○せどやま体験でまきを作るまでに切る、割るが思ったより大変でびっくりしました。</p> <p>○せどやま体験でのこぎりでまきを切るのがむずかしかったです。</p> <p>○せどやま体験で仲間と凄く協力できて嬉しかったです。つかみ取りで、ルールが変わって、一匹も取れなかったのが悲しかったです。</p>	<p>○川魚つかみ取り体験で、魚のたまり場があってよく取れたこと。</p> <p>○魚は一匹も取れなかったけど、魚の内蔵を割り箸でとって、焼いて食べたらおいしかったことです。</p> <p>○川魚つかみ取り体験で、みんなと協力できた。</p> <p>○あまごのつかみ取りで内蔵を取るのが初めてだったけど簡単で楽しかったです。</p>

八重小学校	
<p>○せどやま体験で色々なものに、エネルギーが含まれていることを知ってびっくりした。</p> <p>○丸太を切るとき腕が痛くなったけど切れたとき嬉しかった。</p> <p>○せどやま体験でノコギリでどんだん木が切れていくところが心に残った。</p> <p>○せどやま体験で木を切るときとってもかたかったこと。</p> <p>○せどやま体験で木を切るのは難しい事を知りました。</p> <p>○薪割り体験でのこぎりで切るだけであんなに手がいたくなるとは、思わなかったからびっくりした。</p>	<p>○魚釣りをして釣った魚がおいしかった。</p> <p>○川魚の釣り体験で魚の内蔵をグリグリして割り箸で引っ張り出すところがグロくて心に残った。</p> <p>○命をいつも頂いていること。</p> <p>○釣り体験で最初は釣れなかったのに後半からばんばん釣れた。</p> <p>○心に残ったのは魚を頑張って1匹全部食べること。</p> <p>○川魚釣りは最初やったときは一発成功して簡単だなと思ったけど二回目から全然釣れなくて苦労した。</p> <p>○大きな木を割って機械で小さくし、いろいろなところにはこんで売っているということがわかった。</p>
八重東小学校	
<p>○せどやま体験で、木を切るときみんなで協力して、やったこと。</p> <p>○せどやまでは、昔の人はまきでお風呂をたいていたことがわかった。</p> <p>○せどやま体験で丸太を切った事。</p> <p>○せどやま体験で、協力をして丸太を切って、がんばれたから心に残った。</p> <p>○せどやま体験で、薪を運ぶのが、心に残った。</p> <p>○せどやま体験では、薪を、切るコツを、教えてもらって、なんとか切れたことが、心に残っています。</p>	<p>○川魚つかみ取り体験では、川魚を取って焼いて食べたことがとても心に残った。かわいそうだけど食べれて嬉しい。</p> <p>○川魚のつかみ取りでは、アマゴがとてもはやくて、つかまえにくかった。</p> <p>○魚つかみ取り体験のこと。魚をつかんでさばいて食べたときかんしゃをしないといけないとあらためてしたから。</p> <p>○川魚つかみ取りは、魚が、ぬるぬるしていたから取りづらかったこと。</p>
壬生小学校	
<p>○せどやま体験で順番もわからないのに準備体操を皆の前でやったこと。</p> <p>○せどやま体験で地球温暖化を進めないように木をつかってエネルギーにして使っていることがよくわかった。</p> <p>○細い丸太でも、ノコギリで切るととても時間がかかった。</p> <p>○せどやま体験で筋肉痛になった。せどやまでためたお金で、アイスを食べたこと。</p> <p>○自分にとってすごくいい体験だったと思う。</p>	<p>○魚のところでは火をつける時に自分たちで考えてできたこと。</p> <p>○生き物の命をいただく大切さを改めて知ることができた。</p> <p>○魚つりは初めは難しかったけど、慣れてくると意外と楽しかった。</p> <p>○班の人と協力してできたこと。</p> <p>○説明を聞いて、見学したりして、実際に、体験して学んだ。</p>
本地小学校	
<p>○初めての体験で、とても難しかった。</p> <p>○自分も、釣りや丸太切りができるということがわかった。</p> <p>○木が環境を良くしているとか、自分が生きるために魚の命を食べているなどのことについてよく学んだ。</p> <p>○工夫して木をたくさん切って、頑張ったなと思った。</p> <p>○人と協力してよかったと思った。だから、心に残った。</p> <p>○川魚の内臓抜きと火起こしが心に残った。</p>	<p>○協力することができたので、協力する力が高まったと思った。班で火をおこして、いいなと思った。</p> <p>○川魚釣り体験で、教えてもらったことを使って二人で協力したことが心に残った。</p> <p>○海釣りはよくやっていたけれど、川での釣りはやったことがなかった。また新しいことができてよかった。</p> <p>○丸太を切ったり魚を釣ったりして、みんなと協力することができたことが心に残った。</p>

豊平小学校

○木が分厚かったけどすぐ切れるようになったこと。  
 ○また行ってみたいなと思った。  
 ○木を思いっきり切ったこと。  
 ○せどやま体験で初めての体験をさせてもらったこと。  
 ○最後に汗を洗うように温泉に入ったり、みんなで一緒にアイスを食べたのが心に残った。  
 ○体験活動をして八重東小学校の人と協力して楽しめたこと。  
 ○せどやま市場体験でどんなに木を切るのが大変かがわかった。

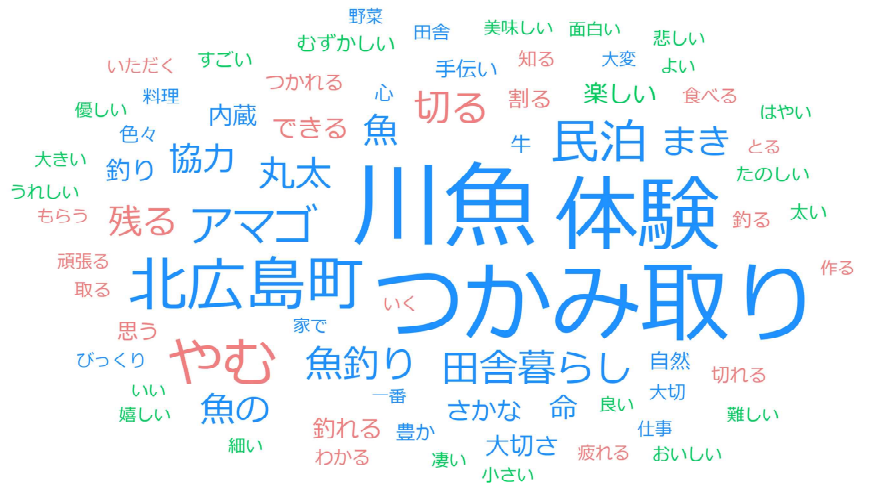
○つかみ取りをする前、火を起こしたこと。  
 ○川魚のつかみ取りでは、あまごを取るときに命をいただくのはかわいそうだったけど、命の大切さが学べた。  
 ○アマゴのつかみ取りが初めてやったけどみんなで協力できたので楽しかった。  
 ○魚を4匹取ったけど2匹逃げたから悲しかった。  
 ○アマゴのつかみ取りに来たのにヤマメのつかみ取りになって食べたのが驚いた。  
 ○つかみ取り（理由：魚の内臓などを出すときは、嫌だなと思っていたけど、食べてみたらすごく美味しくてびっくりしたから）

児童のアンケートから

右の図は、民泊後に実施したアンケートで、児童が記載した感想をテキストマイニングしたワードクラウドと呼ばれる図となる。繰り返し出てきた単語が大きく表示される。

「川魚」「つかみ取り」「体験」など、体験についての感想がキーワードとして多く挙げられていた。

初めての環境で田舎暮らし体験を行い、その中でふるさと北広島町の良さを改めて感じる機会になった。



### 民泊をふり返って

芸北小学校 池田 悠誠

ぼくが民泊をふり返って印象に残った活動は、大きく三つあります。

一つ目は、ろうきんの森での色えんぴつ作りです。そこには、色えんぴつを作るためのぼくの知らない道具がありました。最初はこれでできるのか、その道具を使えるのか心配だったけど、どうにかできました。ぼくなりのおかげで仕上がってよかったです。

二つ目は、豊平どんぐり村そば道場でそば作りをしたことです。ぼくは、そばの作り方を初めて知りました。特に難しかったのは切ることです。太くなったり細くなったりしましたが、みんなといっしょにおいしく食べることができたのでよかったです。

三つ目は、大暮養魚場のことです。その施設でサーモンを養しょくしていることを知りました。サーモンの養しょく場には、水車などの設備が整っていました。そこでアマゴのつかみどりをしました。アマゴはぬるぬるしていたので、何回かアマゴににげられました。でも、石と石のすき間ににげこんだところをねらって三匹全部とれました。自分たちでとったアマゴをおいしく食べることができたのでよかったです。

ぼくは、三日間の民泊を通して、分からない時は自分から聞くことが大切だと分かりました。民泊の初日は、分からないことを自分から聞くことはできなかったので、困りました。だから二日目は、聞くということをごんばりました。そうすることで、自分が何をすればよいかがよく分かり、積極的に動くことができました。

町内のみ力を知ることもできたので、民泊に行ってもよかったですと思いました。

### 民泊の思い出

大朝小学校 石橋 倫明

僕は、7月12日から14日に民泊体験をしました。

民泊体験1日目、最初に対面式を行いました。自己紹介の時、僕は緊張していたけど民泊先の倉田さんがやさしく笑顔で迎えてくださったので緊張がほぐれました。家については畑仕事をしました。畑仕事ではビニールハウスにあみをはる作業をしました。あみをはるのは作物を食べに来る山の小動物の被害を減らすためだそうです。倉田さんがあみをはるときに大切なことやコツを教えてくださいのおかげで、上手にあみをはることができました。そのあとの夜ご飯はそうめんを作りました。四人のグループの中で、ゆでる人、野菜を切る人に分かれ、僕は麺をゆでました。倉田さんからは「沸騰してから麺を入れる」「1分くらいゆでる」という二つのポイントを教えてくださいました。ポイントを意識して美味しく作れたので良かったです。

2日目には、せどやま市場で木を切る体験をしました。体験の時に、つかれたら交代したり、ミスをしたらカバーをしたり、いろんな声かけをすることができました。グループのみんなと交代をくり返してたくさん木を切ることができたのでとてもうれしかったです。

僕はこの民泊体験で、みんなで助け合い協力することは大切だと改めて思うことができました。民泊先での畑仕事や料理を作るときに役割分担をして、積極的に自分の仕事をすることでチームでやりとげることができたからです。せどやま市場でも、木の切り方のコ

ツを教え合ったり，のこぎりの使い方が危ないときに声をかけあったりするなど助け合うことができました。助けてもらってうれしかったし，体験が終わった後にまきでいっぱいになった入れ物を見て，「一人ではできなかつたな」と感じました。これからの学校生活の中でも，民泊体験で学んだ，協力し，みんなで助け合うことを生かしていこうと思います。

## 二泊三日の民泊

新庄小学校 渡邊 英南

7月12日～14日の三日間で，私は，いろいろな体験をした。

その中でも，一番心に残っているのは，せどやま体験と，友達と一緒に泊まった民泊だ。せどやま体験では，大きな丸太を切って，その報しゅうとして，おいしいジェラートを食べた。

まず，係の人の説明を聞き，支える役と切る役に分かれて丸太を切った。直径三十センチメートルぐらいの太さの丸太は想像していたよりもはるかに切るのがむずかしかった。かたい所ややわらかい所があり，のこぎりを動かしても，なかなか切り進めることができなかった。いっしょうけんめい，友達と交代しながら，のこぎりを動かし続けた。やっとの事で切りはなせた時は，達成感が満ちあふれた。その後食べたジェラートがおいしかったのは言うまでもない。

この体験で感じたことは，二つある。一つ目は，いっしょうけんめいやれば，やりきった後に達成感を味わうことができることだ。二つ目は，お金をかせぐ仕事に楽なものはないということだ。

私はこれまで興味のある事ばかりいっしょうけんめいやっていたので，これからは，何でもいっしょうけんめいにやりたいと思う。

今回の民泊は，クラスの女子五人で泊まった。これは初めての体験だった。

五人で草木ぞめやじゃがいもの収穫，食事の後の食器洗いでは，洗剤をつけて洗う役，水ですすぐ役，ふく役に分かれてお手伝いをした。役割分担をすることで，みんなで協力しているということ，強く感じることもできた。協力することで，学校にいるときよりも会話がはずんだ気がした。

友達と一緒に民泊をした経験から，自分のことは自分ですること，一人では大変なことをみんなで協力して作業することの大切さを学んだ。

学校生活の中でも，一人でできることはがんばりつつ，みんなと力を合わせていろいろかべを乗りこえていきたい。

## 楽しかった民泊

八重小学校 清水 柚希

私は，村竹宏示さんの家に泊まりました。ねるところやおふろ，トイレなどいろいろな部屋を案内してくれました。だけどその途中に不思議な声が聞こえてきて，村竹さんがその声の主をもってきてくれました。みんなは，人や，いろいろな物を考えたけれど，それは「みい」という人形でした。みんな予想とちがったので笑いました。

田舎暮らし体験では，ほうれん草とかつお菜という野菜の種をまきました。ほうれん草



の種が三角でとげとげしていて、不思議な種だなあと思いました。

二日目は、朝ごはんがホットサンドでした。だけど、こがしてしまって真っ黒になりました。せどやま体験では、芸北の温泉はまきでたいていることを知ってびっくりしました。

木を切るときに、しっかりおさえてもらわないとむずかしいことを知りました。

「上手だね。」

と言われてうれしかったです。給料(せどやま券)をもらったときはうれしかったけれど、アイスを食べると聞いてとても寒くなりました。

村竹さんの家に帰って、ぎょうぎを作りました。六十一枚もみんなでつつんでとても楽しくできました。十一月十五日は、同じ班の小田さんの誕生日でもありました！ご飯を食べて歯みがきをして、ねる前にまくら投げや人生ゲームをして、楽しい夜になりました。

三日目の朝ごはんはたまご焼きでした。それもちょっとこげていて、でも、とてもおいしかったです。最終日だったけれど楽しく村竹さんとお話できてうれしかったです。

魚つりでは、「魚の命をとって私たちは生きているんだな」と思って、命を大切にしようと思いました。

民泊では、楽しいことがたくさんあったしびっくりしたこともあって、五年生の中で一番の思い出になりました。

## 民泊体験を終えて

八重東小学校 呉川 心美

私は、この民泊体験をしてみて、たくさんの思い出や学ぶことができました。学んだことは五つあります。

一つ目は、礼ぎやマナーです。人の家で二日間過ごすので、食事のマナーや礼ぎをたくさん知ることが、できました。

二つ目は、ピザの作り方です。私は最初から最後まで、自分でピザを作ることは、初めてだったのですが、民泊先の吉川さんの指導や同じ班の人と協力したことで、とてもおいしく作ることができました。

三つ目は、人前で代表として、あいさつをする力です。私は、あまり学校で、人前であいさつをした経験がなかったので、このような機会に経験が出来てよかったです。

四つ目は、自分のことを自分でやることです。民泊家庭では、ごはんや荷物をまとめることは、自分で全てやらなければならなかったもので、これから役に立つと思います。

五つ目は、アマゴとヤマメの見分け方や火起こしのやり方、魚の内ぞうの取り方です。大ぐれ養魚場では、楽しいことだけではなく、命の大切さや身近なことで使える知識も身につけることができました。

私がこれらのことを学んで、たくさんの発見や考えたこと、気付いたことがありました。そしてここで学んだ、礼ぎやマナー、自分のことを自分でやる力を将来、他の場所で宿泊するときや普段の生活に役立てたいです。私が民泊体験で楽しい思い出やたくさんのことを学べたのはすべて北広島町のよさだと思います。北広島町にこんなに美しい自然ややさしい人がいるのは、とてもうれしく思います。だからこれからも私は、こんな北広島の物を大切にしていきたいと思います。

最後に、班や個人の目標、「こまったときには助け合い楽しむ」ということをすべての場面で達成することができたので、本当によい経験となりました。

## 初めての出会い

壬生小学校 沖野 愛純

十一月八日から三日間、民泊体験をした。行く一週間前からとてもワクワクしていた。でも、いざ民泊家庭の方と会うと緊張してあいさつもスムーズに言えなかった。民泊家庭に着き、部屋に案内された。その瞬間、私は緊張から解放された感じになった。その後は里芋掘りをした。想像していたのと全然違っていたのでびっくりした。しばらく掘っているとミミズが出てきた。私は「キャーッ」と叫んで逃げてしまった。里芋掘りが終わると今度は水で洗った。水が足に散って冷たかったけど、頑張っけて洗った。全てを洗い終わり、部屋でゆっくりした。

二日目は、友達に起こされた。朝ごはんをゆっくり味わいながら食べた。せどやま市場に到着し、せどやま体験をした。丸太をのこぎりで切ったり、丸太を薪割り機で割ったりした。帰りの車の中で前日よりたくさん話をした。家に帰ると、家の周りに咲いている花や、もみじやいちょうなどを拾い、紙に貼った。暗くなり、家の中に入った。風呂に入り、最後のばんご飯を食べた。とてもおいしかった。ご飯を食べ終わり、トランプや人生ゲームをして遊んだ。とても楽しかった。

三日目の朝、いよいよ今日は民泊家庭の方とお別れの日。いつもと同じ朝だけど、特別な感じがした。準備が整い、迎えが来るので外に出て待った。時間になってもなかなか車が来なかった。寒かったけど、うれしかった。車が来て、文化ホールに移動した。「お別れ式」が終わったらすぐに民泊家庭の方の所に行き、たくさん話をした。時間になり、大暮養魚場に行くバスに乗った。バスが走り出し、私は思い切り手を振った。民泊家庭の方も手を振ってくれた。

二泊三日の民泊は、とても楽しかったし、色々なことを学べた。またいつか、民泊家庭の方の家に行きたい。

## 民泊体験の感想

本地小学校 新增 那音子

私達は、民泊で、民泊受入家庭との対面式、田舎暮らし体験、せどやま体験、民泊受け入れ家庭とのお別れ式、川魚つり体験をしました。

一日目の対面式で倉田さんにはじめて会いました。「とても優しそうな人」というのが、第一印象でした。家に着いてから、田舎暮らし体験をしました。体験ではほうれんそうとトマトを収穫しました。そこへ先生方がいらっしゃいました。ほうれんそうを手に、「とったどーポーズ」をし、写真をとりました。その後はおふろそうじをしました。人生初でした。大変だったけど、「いやだ」という気持ちがなくなりました。

二日目のせどやま体験では、一通りせどやま市場を見学した後、二メートルくらいある木を四十センチメートルずつ切り、丸太にする作業をしました。三人一組で、作業しました。午前中は効率が悪く、三本しか切れませんでした。でも午後は両はしから切る「はさみうち作戦」により、丸太を三本切ることができました。のこぎりで切るとき、うでや足がしびれました。でもリタイヤではなく「あと少し、もう少しがんばろう。」と自分に言いかけたため、伸びようとする気持ちが伸びました。たき火が好きなお父さんにオススメしたいです。

三日目のお別れ式では、私は、児童代表あいさつをしました。緊張したけどうまく話せ

て良かったです。最後に大暮養魚場です。私達はアマゴを一人二匹ずつつり、くしにさして焼きます。私は魚が好みじゃないけど、とてもおいしく感じられました。

今回の民泊で体験することはきらいなことや苦手なことが「おもしろい。もっとやりたい」と得意になることが分かりました。

## 最高の民泊体験

豊平小学校 佐々木 一晴

2泊3日の民泊体験。行く前は、不安と楽しみな気持ちでいっぱいだった。

友達といっしょに知らない人の家に泊まることは初めてだし、どんな家なのかも行ってみないと分からない。不安だ。反対に、2日目のせどやま体験は楽しみだった。僕は家でたまに竹を切ることがある。せどやま体験では木を切ると聞いていたので、「同じようにズバズバとたくさん切ってやるぞ。」と思っていた。

そんな僕の気持ちは、両方とも大きくうら切られた。もちろんいい意味で。

まず、民泊先の小川さんの家はとても楽しかった。玉ねぎをむく手伝いをしたり、友達とテレビを見たり、いっしょに夕食を食べたりと、充実した時間を過ごすことができた。

せどやま体験で木を切るとは、思っていたよりもずいぶんと大変だった。そもそも、木は竹とちがって中が空洞じゃないし、竹は太くても直径が10cmくらいだと思うけど、切った木は大木（直径20～30cm）だった。ズバズバと切ることなんて、できなかった。

ただ、せどやま体験は同じ班の友達といっしょだったので、大変な作業もなんとか楽しむことができた。

「ばんごはんは肉じゃがだー！」

など、元気が出ることを言い合ったり、かけ声を出したりして、協力しながら大木を切っていくと、友達との絆が深まった感じがした。

体験を終えた後、小川さんの家で調理を手伝い、友達と食べた肉じゃがは、とてもおいしかった。

僕はこの体験を通して、ふだんいっしょに過ごしている友達のいつもとちがった面を見ることができた。そして、相手とどう関わり合ったらいいかなど、これからの人間関係について考えることができた。民泊先の小川さんもやさしかったし、最高の民泊体験だった。



# 6年生

## 夢と希望を乗せて、ロケットを飛ばそう



# 北広島ふるさと夢プロジェクト事業〔6年〕実施計画

～「夢と希望を乗せて、ロケットを飛ばそう」～

- 日時 令和4年9月27日(火) 9:30～14:10  
※新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては、オンラインによる講演会
- 場所 KumahiraPark 北広島(千代田運動公園(総合体育館 多目的広場))  
〒731-1515 広島県山県郡北広島町壬生 10500 Tel. 0826-72-8822
- 目的
  - 株式会社植松電機 植松努代表取締役の講演を通して、夢をもち実現することのすばらしさを学ぶ。
  - ロケットを製作し発射させるという感動体験を通して、科学への興味関心を高める。
  - ※ 上記の目的や日程・グループ等ついて、各校で事前指導を行っておく。
  - ※ 新型コロナウイルス感染拡大予防のため、ロケット製作・発射では、他校の児童との交流はせず、各学校でのグループ活動とする。また、今年度は無観客(地域や保護者は不参加)とする。

## 4 対象児童 小学校6年生(9月9日現在)

	芸北小	大朝小	新庄小	八重小	八重東小	壬生小	本地小	豊平小	計
男子	2	6	7	16	14	16	4	12	77
女子	7	5	6	14	10	11	6	12	71
<b>児童数</b>	<b>9</b>	<b>11</b>	<b>13</b>	<b>30</b>	<b>24</b>	<b>27</b>	<b>10</b>	<b>24</b>	<b>148</b>
引率者 (兼護教諭)	2 (0)	3 (0)	3 (1)	3 (0)	3 (0)	4 (0)	2 (0)	3 (0)	23 (1)
<b>合計</b>	<b>11</b>	<b>14</b>	<b>16</b>	<b>33</b>	<b>27</b>	<b>31</b>	<b>12</b>	<b>27</b>	<b>171</b>

◇新庄小より「石橋養護教諭」(13時40分迄)が参加。但し、応急対応グッズは各校で持参する。

## 5 日程

### (1) 各学校より会場への集合

すでに町教委がバス会社に予約済みだが、停車場所等については各学校で各バス会社と確認すること。

- ①芸北小 [8:15 発] → 豊平小 [8:45 発] → KumahiraPark 北広島 [9:15 着]  
＜大型バスー総企バス＞ (児童33名+引率者)
- ②大朝小 [8:40 発] → 新庄小 [8:50 発] → KumahiraPark 北広島 [9:15 着]  
＜中型バスー大朝交通＞ (児童24名+引率者)
- ③八重東小 [9:00 発] KumahiraPark 北広島 [9:15 着]  
＜中型バスー八重タクシー＞ (児童24名+引率者)
- ④八重小 [9:00 発] KumahiraPark 北広島 [9:15 着]  
＜大型バスー八重タクシー＞ (児童30名+引率者)
- ⑤本地小 [8:45 発] → 壬生小 [9:00 発] → KumahiraPark 北広島 [9:15 着]  
＜大型バスー壬生交通＞ (児童37名+引率者)

### (2) 全体会・活動の流れ

各学校よりバスで総合体育館に到着後、2階の観覧席に荷物を置いて、1階のフロアに集合する。

※早く到着した学校は、できるだけ奥より詰めるようにする。

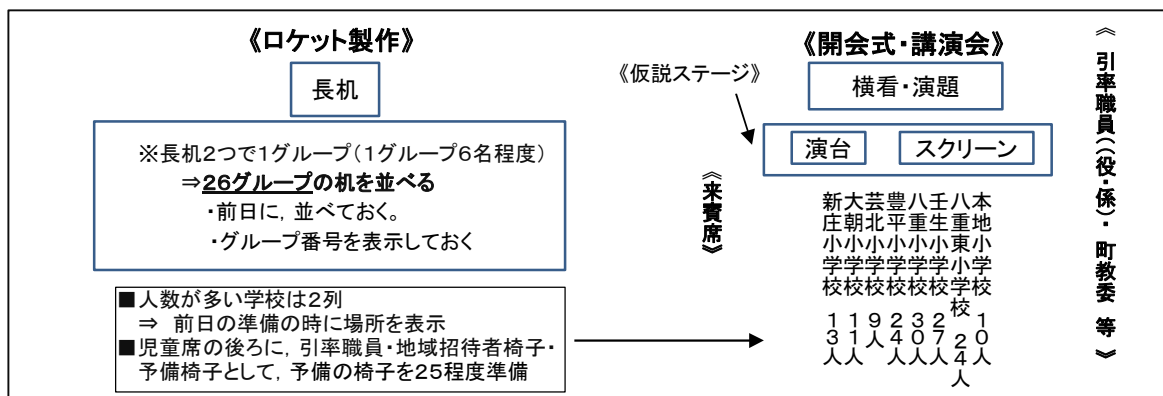
□持参した屋内シューズに履き替えて2階へ(くつはビニール袋等へ入れて持っておく)

□水筒(お茶)を持って1階へ。講演会はメモなどを取らない。

◆開会行事(9:30～9:45)ー総合体育館(講演・ロケット作りも)

＜司会進行ー引地教諭(新庄小) サブー松田教諭(壬生小)＞

児童の並び(開会式・講演会は椅子に座って)



## 【活動の流れ】

### (1) 開会行事 (9:30~9:45)

- ① 開会挨拶 (応援隊副隊長) ※町教委が連絡調整をする。
- ② 校長代表挨拶 (担当校長代表 [大丸校長-新庄小]) ※講師紹介を含む
- ③ 来賓紹介 (司会進行) ⇒ 応援隊副隊長 (副町長), 西部教育事務所芸北支所長, 教育長, 学校教育課長, 生涯学習課長 (予定)

### (2) 講演会 (9:50~10:50) …株式会社植松電機 植松努代表取締役による講演会 ・メモなどは取らずに、開会式の並びで講演を聞く。

### (3) 休憩 (10:50~11:00) ※トイレ, 水分補給等

### (4) ロケット製作 (11:00~12:00)

- ・ロケット製作をする各学校のグループ机に移動し、指導を受けて製作 (学校名の表示あり)。
- ・各グループのテーブルに手指消毒用アルコール等を置く。各学校で用意。児童の準備物はなし。
- ・引率職員は、自分の学校の児童を中心に関わり、必要に応じて製作の支援をする。
- ・製作後、講師を囲んで記念写真-体育館の2階より撮影 (町教委)

※昼食・休憩・移動-学校ごとにアリーナの2階で弁当を食べる。

- ・引率職員 (できれば各学校1名) は、早めに弁当を食べて事前指導を受けて、講師のロケット点検に協力する。

### (5) ロケット打ち上げ (13:00~14:00) -多目的広場-

- ・マイクまたは拡声器は町教委で準備される。
- ・帰りのことを考え、荷物を持って指示される場所に集合する。
- ・職員は、安全に発射できるよう児童の指導や役割分担の仕事を行う。
- ・児童は4グループに分かれる。<八重小と芸北小 (39名), 大朝小と豊平小 (35名), 新庄小と八重東小 (37名), 本地小と壬生小 (37名)>

### (6) 閉会行事 (14:00~14:10) -多目的広場- ※学校ごとに集合し並ぶ

- ① 閉会挨拶・謝辞 (担当校長代表 [二井岡校長-豊平小])
- ② 児童代表挨拶 [大朝小学校]

<参考:過去の児童代表校>

R3 芸北小, R2 壬生小, R1 八重小, H30 新庄小, H29 新庄小, H28 豊平小, H27 八重東小

※株式会社植松電機 植松努代表取締役に最後に挨拶をしていただく (町教委が事前に確認)

※閉会式後、バスのグループごとに学校へ帰る。14:30を目安に KumahiraPark 北広島を出発する。

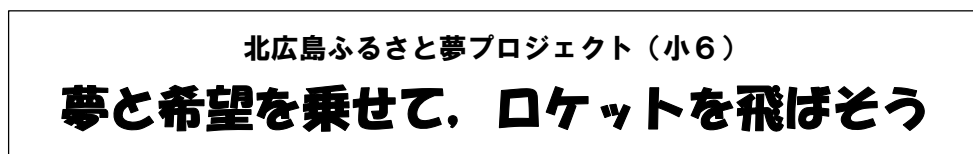
- ◎ 雨天・強風等の天候不良のために、ロケットの発射ができなかった場合は、弁当を食べて13:15を目安に KumahiraPark 北広島を出発して学校へ帰る。学校で、後日ロケットを発射する。

## 6 会場・準備物等

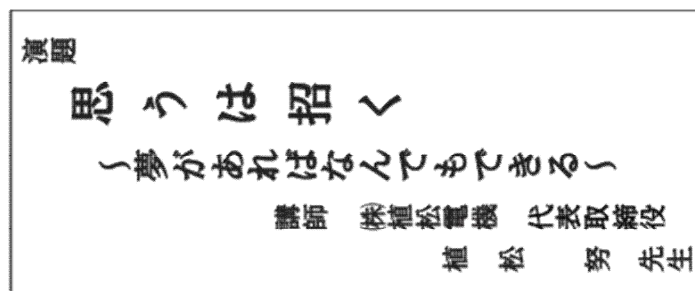
### (1) 開会式・講演会

#### 【町教委】

○横看板



#### ○演題



○演台 (パソコンを手元で操作しながら話すためのパソコンの置ける演台)

○プロジェクター ○スクリーン ○パソコンと接続出来る音響用スピーカー など  
パソコン (マック) は持参される。

【KumahiraPark 北広島】

○音響装置（マイク・スピーカー等） ○椅子ー180脚程度

(2) ロケット製作

【町教委】

○長机ー55台

製作に使用する道具が6人1セットで用意されているため、6人が向かい合わせで1つのグループ（2台で1グループ）になるようにテーブルを配置する。

<26グループ⇒53台 準備用の机も必要なので、最低で55台程度必要>

⇒必要に応じて、他より持って来ていただくようお願いする。

○マジック〔油性〕

■黒148本ー児童一人に一本 <町教委が購入>

【学校】

○グループ分けの確認

※事前に児童に、グループ番号を知らせておく。

○マジック〔油性〕を持参（色が6色等セットになっているもの）

■6色等がセットになっているマジック〔油性〕

ーグループごと最低で2セット、全体で最低52セットは必要。

(3) ロケットの打ち上げ

【町教委】

○安全な発射、多目的広場の安全確保のためのサポート員（10人程度）

○スイッチを乗せる台（4台）を、KumahiraPark 北広島（陸上競技場）より借りる。

○これまでに各校に配布されている発射台やスイッチ等は持ち寄らなくてもよい

(4) 予算・会計

【町教委】

《株式会社植松電機》

○モデルロケットキット代（消費税別）

小学生以下・・・3,000円／1人 148人分

○交通費、宿泊費は別途支払い。交通費については実費ではなく、会社規定の往復料金が必要。  
（後日にまとめて請求あり）

《その他》

児童輸送バス代・会場利用料等

7 報告書作成について

○実施後に、ねらいが達成できたか評価したり児童の思いを把握したりするために、アンケートを実施。児童アンケートは、集計の負担減、効率化の観点から「GoogleForm」で作成（町教委）

【実施後の児童アンケートについて】

9月30日（金）までに「GoogleForm」で回答する。（報告書や夢プロ便りの資料とするため）

○次の内容の「報告書」を作成する。

業務改善の観点から「夢プロ便り」（A3一枚）を活用して報告書を作成する。

(1) 講演の感想（120字程度）	【八重小・豊平小】
(2) ロケット製作の感想（120字程度）	【芸北小・大朝小】
(3) ロケット発射時の画像	【アップ：新庄小，ルーズ：壬生小】
(4) 打ち上げの感想（120字程度）	【八重東小・本地小】

※10月末に「夢プロ便り」の原稿が仕上がった時点で、町教委の松長さん、「夢プロ便り」担当の二井岡校長、6年ロケット担当の大丸校長とで調整する。

8 役割分担など

担当学校を中心に分担。

○株式会社植松電機・講演講師との渉外（町教委）

○講師の昼食 弁当〔2食〕の準備（町教委）

○バス会社と連携（町教委）

※事前に、町教委が各バス会社に依頼 駐車場所の確認は学校毎



- 教育委員会届出・保護者通知文（町教委作成⇒各学校配付）
  - 本年度は，地域や保護者の方の参加は控えていただく。保護者通知文に記載している。
- 会計（町教委）
- 全体会に関わって
  - ◆全体会進行 <引地教諭（新庄小）> ※事前に進行細案を提示
  - ◆開会式挨拶 <大丸校長〔新庄小〕>
  - ◆閉会挨拶・謝辞<二井岡校長〔豊平小〕>
  - ◆児童代表挨拶（閉会）<大朝小> ◇記録写真<松田教諭（壬生小）>
    - ※9月16日までに児童挨拶者を決める。
- 担当者（町教委―松長 新庄小―大丸）
- 夢プロ便り <豊平小―二井岡>

## 9 留意事項

- プロジェクトの趣旨を踏まえて，児童に目的意識を持って参加させる。安全な実施ができるように事前に各学校で指導をしておく。
- 服装は各校の通常の通学服とする。筆記用具・弁当・お茶・屋内シューズ・靴を入れるビニール袋・名札・天気によっては雨具<傘と，あればカッパ・レインコート等>を持参する。
- 特別な支援を必要とする児童，健康に留意する必要がある児童については，事前に保護者と連携をしておくとともに，引率職員体制について各校で配慮する。
- 前日の9月26日（月）16時より，会場準備等を町教委職員と一緒に行うので，各学校1名以上の職員の参加をお願いしたい。町教委は，午後より準備をされている。
  - ⇒依頼の文書は，町教委より送付
- 授業時数カウント（案）…学校行事2h，総合的な学習2h，図画工作1h，学級活動1h

## 「夢と希望を乗せて、ロケットを飛ばそう」の活動の様子

令和4年9月27日（火）、北広島町内の全小学校6年生児童を対象に“北広島ふるさと夢プロジェクト事業「夢と希望を乗せて、ロケットを飛ばそう」”を開催しました。

北広島町・北広島町教育委員会と各小学校は、次のことを目指してこの事業に取り組んでいます。

- 植松電機 植松努代表取締役の講演を通して、夢をもち実現することの素晴らしさを学ぶ。
- ロケットを製作し発射させるという感動体験を通して、科学への興味関心を高める。

今年で8年目を迎え、これまでも先輩たちが学びそして体験してきており、その内容を伝え聞いている6年生の児童たちがとても楽しみにしている事業です。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、過去2年間はリモート方式で開催していました。今年度は3年ぶりに北海道から植松努代表取締役をお招きし、町内8小学校の6年生がKumahiraPark北広島（千代田運動公園）に集合しての講演会並びにロケット製作を実施しました。

### 植松努代表取締役講演会 演題「思うは招く～夢があれば、なんでもできる～」

植松努代表取締役は、小さい頃からの夢であるロケット製作を実現するために、ロケットとは関係のない小さな会社で夢と希望を持ってロケットづくりを始められ、その後、幾多の困難を乗り越え、民間では偉業ともいえる宇宙を飛ぶロケット開発を成し遂げられました。児童達は植松努代表取締役のユーモアと感動のある話に引き込まれ、将来への夢や希望をもって努力することの大切さを学び、他では得ることができない多くの力強い「言葉」をいただきました。その一例を紹介します。

- 人の出会いには意味がある。 ○人は足りないからこそ助け合える。
- 奇跡を起こせるキーワード 「ちがうはすてき！」。 ○失敗はデーター。乗り越えたら力になる
- 自分の夢をどんどんしゃべろう。 ○未来はわからない。だから未来をあきらめる理由はない。
- 「どうせむり！」は自信と可能性を奪う最悪の言葉。 ○伝記を読もう。つらいことの乗り越え方が書いてある。



### 講演を聞いた児童の感想

私が心に残ったのは、「不安や苦勞の先に喜びがある。」という言葉です。今、運動会のことですごく悩むことが多いです。でも、やり切ったときの感動やうれしさは、がんばった分だけ大きくなると思えたので、みんなでもっと良くなるように協力していきたいです。

ぼくは植松さんの話の中で、「不安の先に喜びがある」という言葉が心に残りました。不安になっただけですぐにやめてしまうのがぼくですが、間違いや失敗を恐れずに挑戦していきたいと思いました。そして夢に向かって頑張りたいと強く思うようになりました。

## みんなで協力し、夢のロケット完成！

ロケット製作は、基本的に自分達の力で行います。説明書を見ながら、児童達は作製しました。時間が経つにつれて協力しあう様子がみられました。

ロケット発射は、悪天候のため行わず、テスト機を飛ばしました。児童代表が発射ボタンを押すと、高さ 100m までロケットが飛んでいきました。

児童は、自分で製作したロケットを、それぞれ学校に持ち帰り、後日各学校でロケット発射を行いました。

### ロケット製作・発射の様子



### ロケット製作・発射の児童の感想

ロケットづくりでは、将来の夢がかなうようにと思いを込めて作りました。ロケットに模様を描くとき、失敗したらどうしようと思い、なかなか描けませんでしたが植松さんの「失敗することが怖いから、自分のできることだけをするのはダメ。」という言葉の思い出し、思い切って描き始めることができました。

ロケットづくりは、班の人と協力して作ることができました。わからないことや心配なことを声に出して聞くことで、安心して作ることができました。

パラシュートのひもをきれいにまっすぐつけるのが難しく、何回もやり直しましたが、あきらめずに最後までやりきることができました。

ロケットが高く打ち上がり、とても嬉しかったです。植松さんがおっしゃられた、「不安の向こう側には喜びがある。」ということを実感しました。私は、自分の夢をあきらめようとしていましたが、この夢プロのおかげで、もう一度、夢に向かってチャレンジしようという気持ちをもつことができました。

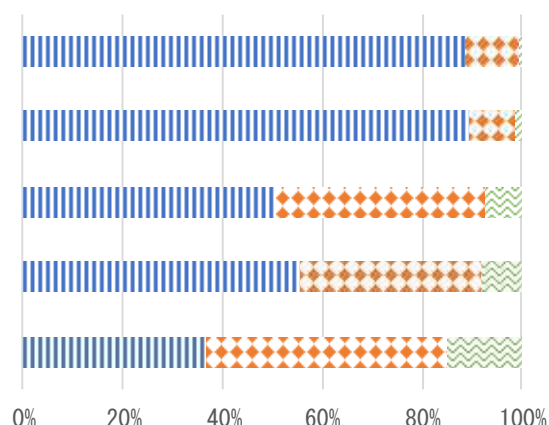
学校で大休憩に、全校のみんなの前でロケットを飛ばしました。自分で作ったロケットが、本当に飛ぶのかなと不安でした。でも、飛ばしてみたらちゃんと飛んだし、飛んだ時「やったー！」と思いました。とてもうれしかったです。やっぱり自分で作った物・事が成功すると、うれしいんだなと思いました。

### 児童のアンケート結果から（詳細は次ページ以降参照）

「夢に向かって」「あきらめない」「叶う・叶える」など、講演の内容から感じて欲しいキーワードが多く挙げられました。「1 講演会の話は、夢と希望を持つことができるよい話だった」「2 友達と一緒に楽しくロケット作りをすることができた」のアンケートに対して95%以上の児童が肯定的に受け止めており、事業のねらいが達成できたと考えられます。

## プロジェクトを終えての「児童アンケート」結果（6年）

- (1) 植松先生の講演会の話は、夢と希望を持つことができるよい話だった。
- (2) 学校の友達といっしょに、楽しくロケットを作ることができた。
- (3) ふるさと北広島町が好きになった。
- (4) ふるさと北広島町を大切に思い、住んでいる人のために、自分にできることはしていきたいと思う。
- (5) これからもずっと北広島町で暮らしたいと思う。



■ たいへんあてはまる    ▼ すこしあてはまる    ✧ あまりあてはまらない    ■ ぜんぜんあてはまらない

### 講演会を聞いての感想や思いを自由に書いてください。(抜粋)

#### 芸北小学校

○私は、あまり自信を持って行動できないけれど植松さんの話を聞いてこれからは自信を持って行動していきたいと思いました。

○『不安の奥によるこびがある。』この言葉が心に残っています。

○「どうせ無理」などを言われて、傷ついたりしたと思うのに自分の夢に向かって夢を叶えていたのが「すごいな」と思った。

○怒るのではなく、「次どうするかを考える」ことだとわかりました。自信を失うより自分でどうすればよいかを考えるほうがためになると思った。

○人間はやったことのないことは、必ず失敗すると言っていたので、色々なことに挑戦していこうと思いました。

○僕が心に残っていることは、違うはずですよ。理由は僕は周り合わせてしまうからです。

○私はなにかの行事があると不安でいっぱいだったけどこの言葉をきいて、たしかにこの不安が終わったら嬉しさだったり、喜びだったり心からでてくるなあと思ったからです。

○講演会で、優しくなる方法というのを教えていただき、優しくなる3つのことは、すぐに実行できることなので、生活に生かしてみたいなと思いました。

#### 大朝小学校

○植松努先生の話聞いて、「どーせ無理」を言わないようにすること、「諦めない心を大切に」や「学歴が全てではないこと」などを学びました。

○明日から使えることや、夢と希望が持てるお話が聞けてとても楽しかったし、夢が広がるなと思いました。

○植松先生のかこの楽しいお話を聞いていて、自分にも、将来の夢を諦めないでいいということや、夢をいろんな人に話してみると夢が叶うということが知れました。

○講演会話を聞いて夢や目標を持って諦めずに頑張れば叶うということが分かったのでこれからは夢などを持って諦めずにいろんなことをしていきたいと思いました。

○未来のことがよくわかる講演会でした。実際に経験した話をしてくださったので、とてもわかりやすかったです。色々なことをおしえてくださったのでたくさんを知ることができました。心に残る楽しくて面白い講演会でした。

○無理と言われても諦めずにつづけることの大切さに気がつきました。これからはあきらめないで続けたり、すこしだけ優しくなってみるということ意識して行こうと思いました。自分の経験だけでは気がつかなかったことをしることができたのでよかったし、植松先生のお話でとても大切なことを知ることができました。

新庄小学校

○人を助けるためには、優しさが大切だと学びました。  
 ○夢を少し諦めていたけど植松先生の話聞いて諦めずに頑張ろうと思った。  
 ○失敗を恐れず何事にも挑戦しようと思いました。  
 ○これからは、できるだけ失敗を恐れないようにする。がんばって成功したっていう実際の事があったりして説得力があった。  
 ○自分は夢を諦めかけていたけど植松先生の話聞いて自分でも夢は叶えられるかもしれないとおもいました。なれるように努力をして頑張っていきたいなと思いました。

○私は植松先生の話聞いてすごい人だなあと思いました。それは、子供目線でも大人目線でも見て、考えているから人の気持ちを考えられる人だなと思いました。人によっては自分ばかりで人のことを考えられない人もいます。なのでとてもすごいと思いました。私は植松先生みたいになりたいと思いました。  
 ○無理や、出来ないなどの言葉は無視して自分を信じて行きたいと思った。  
 ○夢を持っているとなでもできるとわかった  
 ○植松さんの「不安の向こうには喜びがある」という言葉を大切に生きたい。

八重小学校

○話を聞いて、自分の夢を最後まで追い続けようと思いました。  
 ○今まで親にその夢は「ダメ！」と言われていたけど植松さんの話を聞いて自分の夢をしっかり何個も持とうと思った。  
 ○夢を広く持つことって大切なんだなと思いました。  
 ○自分の夢は人に指図されずになりたい夢を追いかけ続けたらいいと学びました。  
 ○自分の夢は、スタイリストやメイクを人にしてあげることです。とっても難しことだから諦めようとしたけど、自分の夢に向けて頑張った植松さんの話を聞いてあきらめないで頑張ろうと思いました。

○私も夢を否定されても諦めず頑張ろうと思いました。  
 ○良い言葉をたくさん言ってくださって、いろんなことをする時、勇気をもてるようになりました。  
 ○僕は夢がありませんでした。でも植松さんの話を聞いて僕は夢を持ちました。  
 ○植松先生の話聞いてロケットのことをもっと知りたいと思いました。  
 ○特に、「勉強ができなくても、考えることができれば良い」と教えてくださった事が、心に残りました。  
 ○植松さんの講演を聞いて人と人との関わりを大事にして助け合う大切さを知った。

八重東小学校

○夢に向かって、頑張ると、夢は叶うなら、僕は、もっとサッカーの練習をして、努力をこれからもたくさんしていこうと思った。  
 ○不安の先に喜びがあるという言葉が心に残りました。失敗に罰を与えてはいけないことを知った。  
 ○不安の後には、喜びがあるということがとても心に残りました。とっても良いお話でした。  
 ○植松さんの話を聞いて、すごく引き込まれるような感じだったので「もっと聞きたい」という思いがあります。  
 ○植松さんの、(不安の先に笑顔がある)という言葉聞いて、普段の自分の生活に自身が持てました。また、大人の言うとおりにせず、自分のやりたいことをすればよい。大事なことは、諦めないことだと聞いて、諦めないことがどれだけ大切かがわかりました。

○植松さんには将来の夢のことなどいろんなことに自信を持たせてくれた。不安には喜びがあると言っているんなことに挑戦しようと思いが持てました。  
 ○失敗してもいい、失敗を恐れずに恥ずかしがらずに失敗をして成長につながるということです。  
 ○最初何かを始めるとき色々なことを考えてしまっとなかなか一歩前に踏み出すことができないことが多々ありました。しかし植松さんの話をだんだん聞いていくと勇気づけられていくような感じがしました。  
 ○植松さんが言っていた、「お金は先に使ってたほうがいいよ。なぜか言うとなにが起きるかわからないもしかしたら火事なのでお金が大変なこと焦げて使えなくなるかもしれない。」その言葉を聞いたときなるほどと思いました。中学校に進学しても頑張ります。  
 ○質問できなかったのは残念ですが、植松さんの話を聞いてとてもいい体験になったと思います。

壬生小学校

○植松さんは、お話が上手でそのお話の中の、一つ一つに思いが詰まっていて、みんなに希望や勇気などを与えてくれるようなことを話してくれる素晴らしい方でした。

○僕が人に、どーせむりと言って人の可能性をうばうことをせず、どーせむりと言われても諦めずに頑張ることも大事だなと思いました。

○これから私は、周りをよく観察する・予測する・自分だったらどうするかを考えながら生活したいと思いました。不安の先には喜びがあるという言葉が自分がどうしたらいいかわからないときなどに思い出しながら行動したいと思いました。

○私は、特に勉強をするときなどに、少しマイペースなところがあります。植松さんの話を聞いて、そういうときは、優先順位をつけて、自分の持っている可能性を信じて取り組みたいと思いました。

○「どうせできない」などと言われても、諦めず夢を持ち続ければ夢をかなえられると聞いて、僕はまだ夢はないけどもしできたら植松さんの話を思い出したいなと思いました。

○私はやりたい仕事は2つあるけど、夢はたくさんあっていいと言ってくれたおかげで、迷いが減りました。人にどうこうと言われても、自分がしたいことをあきらめずに頑張ろうと思えました。

本地小学校

○失敗してもいいと分かり、不安がなくなりとても安心しました。

○失敗の先に喜びがあると植松さんがおっしゃいました。だからこれからチャレンジしたいです。

○植松さんの話を聞いて私は周りからなんと言われてようと諦めずに自分の夢を叶えたいなと思いました。

○私は小さい頃から夢だったお医者さんになるのをあきらめていました。でも植松さんに話を聞いてやっぱりお医者さんになりたい頑張ろうと思えました。

○話しを聞くうちに「こんな過去があったんだな」と思いました。そして自分も未来に向かって頑張ろうと思えます。

○これからは、どんなことにも諦めずに、いろんなことに挑戦していきたいです。

○僕は、話が終わった時に「生きるって、大事だなあ」と、思いました。

○僕は何かを作りだしてむずかしかったらやめます。けど今回の講演会をきいて何事にも諦めないように頑張ろうと思えました。

○自分もった夢は、諦めないでいいんだなと、思いました。

○植松さんのお話がとても面白かった。

豊平小学校

○植松さんはみんなから「どうせ無理」というひどい言葉を言われたり、「くだらないことをやるな」という夢をなくすような言葉を言われたりしているのに、自分のやりたいことを叶えて、努力しているからすごいなと思った。

○「私でも、夢を叶えられるかもしれないから夢を叶えるために頑張りたい。」と思った。植松さんのお話を聞いて家族に夢の話をしたら「頑張れ」と言ってもらえて嬉しかった。

○これからもここ豊平を守って明るい未来になってほしいという思いができた。

○僕は剣道を習って「怖いな」と思ったけど試合に勝つてものすごく嬉しかったです。

○僕は、植松さんに会えて本当に良かったです。

○私の夢は、画家です。それだけではなく美術に関することをしたいと思っています。もし私が、諦めそうになったとき植松さんの言った大切な言葉の数々を思い出して夢に向かって歩みたいです。

○命令されたことをするのじゃなくて、自分で考えたり、聞いたりすると、自分のためになる。その中で失敗してしまうかもしれないけど、失敗は悪くないことだと知った。

○私は、「どうせ無理」という言葉を自信がないときや楽しくないときなどに心の中や声に出して言うことがあります。だけど、この言葉は、言う自分も言われたり聞いたりした人も、嬉しくはないので「どうせ無理」を使うよりは、いつでも「プラス」に考えて「自信をつけるチャンスだ」やできたときの自分を想像すればいいということを知りました。

ロケット作りをしての思いや感想を自由に書いてください。(抜粋)

芸北小学校

○分からないことがあれば友達に聞くことができたし、上手に作ることができたのでとても楽しかったです。

○ロケットを作ってみて、思ったより難しかったので、何度も失敗しても挑戦し続けた方たちは、とてもすごいなと感じました。そして、協力することと、諦めないことを学びました。

○本物のロケットを作るには、説明書がないから「どうやって作るのかな」と思った。

○話し合いが大切だと思いました。なぜなら植松さんが言われた、「話し合って作成した方と、話し合わないで作成した方とでは、話し合ったほうが、打ち上げられた。」と言われたので、話し合いが大切だと思いました。

○自分の夢が叶うように、「何を言われても夢をあきらめない」という思いを込めてロケットを作りました。

○ロケットを飛ばすために飛ばすためのエンジンみたいなものや、爆発を最小限に抑えたりする詰め物など工夫がされていたので、自分が作ったのもきれいに飛ぶといいと思いました。

○ロケット作りをしてこんなに楽しく将来の夢を考えることができたのでこれからも続いてほしいです。

○私がわからないことがあったら隣の友達が、助けてくれました。このときに植松さんの言葉を思い出しました。『人は意味があって生まれてくる』と。

大朝小学校

○みんなと協力してカッコいいロケットを作ることができました。植松先生や、植松電機の方から詳しくわかりやすい説明（パラシュートを取り付けていただいたり、パラシュートがうまく開く方法など）を受けることができて、きれいに、飛んでいってくれるような気がしました。

○ロケットを作ったことなんてなくて、少し間違えたりしてしまったけれど、協力できて上手く作る事ができて良かったです。

○ボンドを、つけることが難しかったけれど、自分で、喋っているうちにわかってきました。

○わからないことは友だちに聞いてみんなで協力してできたので良かったです。小さいロケットを作るのはとても難しかったので、もっと大きいロケットを作る植松先生はすごすぎるなと思いました。とっても楽しかったです。

○楽しくロケットを作れて、ロケットの構造などが分かって、「パラシュートはこのように開くんだ！」など知らなかったことを知れて、良かった。

○友達と、楽しく助け合って作ることができました。植松さんも優しく、接して教えて下さったのでわかりやすかったです。

○ロケットを作ることができる機会は滅多になく、貴重な体験をすることができとてもよかったです。それぞれロケットにその人の個性が出たりしていて楽しかったです。

○パラシュートをたたむコツを教えてもらって、なるほどーと思いました。本当のロケットの小さい版を作って、本当に嬉しかったし、みんなと協力できてよかったです。

○みんなと協力して誰の力も借りずにロケットが作れて飛ばせなかったけど、すごくワクワクしました。

新庄小学校

○説明がなくても作ることができるのでとても簡単だなと思いました。

○楽しかった。早くロケットを飛ばしたかった。みんなと協力してできた。

○友達と協力して作れて楽しかったです。

○思ったより難しかった。

○教えてもらったり協力して作ることができてよかったです。

○みんなと助け合うことができてよかったです。

○とても楽しくて、みんなと話し合いながらできることが嬉しかったです。またやりたいなと思いました。

○勇気を出して、わからないところを聞いて良かった。

○夢を持ってロケットを飛ばしたいと思った。

○自分の思い通りのデザインでロケットが作れたので嬉しかったです。

○協力して作れたと思った。

○とても楽しかったです。他の人に聞いたらずぐにこたえてくれたのでスムーズに進んだから良かったです。

八重小学校

○友達と協力して作ることができました。たのしかったです。

○うまく飛ぶか不安。本物のロケットはこの何十倍も作るのが大変だと思うから改めて大変だと思った。

○説明書だけだったと友達と協力してすればできるといことがわかった。

○色んな人と協力することがものづくりをすることがとても大切だと思いました

○こんなに簡単にロケットが作れるなんて知らなかった。

○また作りたい。

○他の学校の人とも話せたから、嬉しかったです。

○ロケットを作る時ほんとにこれが飛ぶのかなと思ったけどほんとに飛んですごいなと思った。

○自分たちでわからないことを教えあって、完成させることができました。

○ロケット作りは、作るのが難しかったけど植松先生が教えてくれたので良かったです。

○ロケットを作るのがちょっと難しかったけど、楽しかったです。

○自分とみんなの力を合わせて最初から最後までできたことがすごく嬉しかったです。

○ロケット作りをして難しかったけど上手にできました。

八重東小学校

○ロケットを作る機会なんてめったに無いのでとても素晴らしい体験ができたなあと思いました。

○説明書があっても難しかったので、植松さんはそれ以上の難易度のロケットを作っているのがすごいと思いました。

○クラスの友達と助け合いながらロケットを作ることができて、とても楽しかったです。(またやりたいし、ロケット飛ばしが楽しみです。)

○学校の友だちと説明書をもとに、楽しんで・よく考えて作ることができたので良かったのと、みんなの個性的な色塗り・イラストを見れて良かったです！

○小さなロケットだけどとってもかっこよくてずっと持っておきたいぐらいかっこいいロケットが作れて嬉しかったですし楽しかったです。

○僕達は時速二百 km もするものを作っていることにびっくりしました。今自分の手には、作ってみたかったロケットが作れると思うとすごく嬉しかったです。

○ロケットを作るキットが有ることにまず驚きました。そして、夢を飛ばすロケットと看板に書いてあったので、色塗りから作成まで、時間をかけて製作しました。最後に植松さんに、自分が作ったロケットに問題がないか点検してもらったときに、100点満点と言ってくだったので、すごく嬉しかったです。学校でロケットを飛ばしますが、自分の作ったロケットをただただ飛ばして楽しむじゃなくて、夢と希望を載せて飛ばしたいです。

壬生小学校

○ロケットをつくる時に、友達や先生が優しく分からないところや、できないところ教えてくれたので嬉しかったです。ロケットを飛ばしたかったのですが、雨でできなかつたので、またできる時にロケットを飛ばしたいです。

○僕が作ったロケットに自分が持っている夢をあきらめないという思いをのせて飛ばしたいと思います。

○班の人と一緒に協力して楽しく制作できたのでとても嬉しいし楽しかったです。

○友達と一緒に楽しく実際に使えるロケットを作れて、いい経験になったと思うし、楽しかった。

○楽しかったことは、みんなと協力して制作できたことです。不思議だったのは、同じ「人間」でもロケットや飛行機を発明し、作ることができるということです。乗せて飛ばしたいのは、将来の自分のために、たりないところは助け合おう、ということです。

○宇宙開発にも使われているロケットを見してもらえてきおくに残る素晴らしい経験になったと思います。

○友達と、「ここはどうやってやるんだっけ」などとわからないところを助け合いながらロケットの製作ができたのでとても楽しかったです。ロケット製作というめったにしないことを私達にやらせてくださったので嬉しかったです。





## 「北広島ふるさと夢プロジェクト」小学校事業を振り返って

北広島町教育委員会  
北広島町内小学校

「夢を持ち、ふるさとを知り、ふるさとを愛し、将来ふるさとに住みたい、ふるさとに貢献したいと思う子どもの育成」をめざして実施している『北広島ふるさと夢プロジェクト事業』の8年目を終えた。

新型コロナウイルス感染症の影響で、ここ2年、小学校では対面・集合での事業実施が出来ず、オンライン等で交流を行っていた。今年、感染症対策を万全に行いながら、学校単位での実施部分もあったが、概ね対面・集合での事業実施をすることができた。

4年生の「お宝発見ツアー」事業は、各学校でツアーの目的を考え、北広島町を体験出来る内容で事業を行うことが出来た。5年生の『「民泊体験」～北広島のよさを満喫しよう～』事業は、11月実施の2つのグループが気温の関係で川魚のつかみ取り体験ではなく釣り体験となったが、その他の活動は計画通りに実施をすることができた。6年生の「夢と希望を乗せて、ロケットを飛ばそう」事業は、雨天のために講演会・ロケット製作後の打ち上げは試験発射のみとし、各学校に持ち帰り打ち上げとなった。

参加児童・学校職員の実施後のアンケート等を分析すると、全体的には、「児童に町の魅力を再認識させることができ“ふるさと”への愛着心を育てたり、将来『北広島町に住みたい、北広島町のために貢献したい』という思いや考えを育てたりすることに効果的であった、と言える結果が出ている。ふるさと北広島町や自分の生き方について考えを深めることができた事業であり、来年度以降も時代に則した見直しを行いながら、継続して事業を実施していきたい。

### プロジェクト全体を通しての振り返り

- 実施前、当日、実施後の手続きや業務の簡素化を引き続き、推進していただきたいと思います。
- 学校単独ではできない取組をさせていただき、大変ありがたい。
- それぞれに児童たちの思い出に残るものとなっている。他校の児童との交流ができるようになれば、中学校に向けての良い準備ともなると思う。
- それぞれの活動が単発で終わるのでなく、カリキュラムの中に位置づけ、より有効的効果的になるよう、学校で工夫していきたい。
- 民泊に参加したのですが、町の支援体制の厚さに感謝、感謝の一日でした。（せどやま体験）
- 毎回、北広島町の児童のために企画・運営していただき、ありがとうございます。
- 事務局や商工観光課の方々に大変お世話になりました。スピーディーな対応に感謝いたします。来年もよろしく願いいたします。
- ふるさと北広島町の良さを感じる取組で、ありがたいなと思います。
- 趣旨をよく理解して、みのりあるものにしていきたいので、オンラインでも良いので、説明会などがあると、さらに良いかと思います。今年度は大変お世話になりました。”
- 北広島町にいるからこそできる体験です。各学校だけではここまではできないと思います。ありがとうございます。
- このプロジェクトは、将来の北広島町を担う人材を育成する意味で、とても有意義で効果的なプロジェクトと考える。是非、継続させていただきたい。計画立案・関係機関との連携など、丁寧な世話をしていたいただいた町教委の方には、厚く感謝している。「担当者が変わった場合の丁寧な引き継ぎ(効率的な実施)」「分かりやすい諸データの提示・管理(今年は、小5のデータが分かりにくかった)」については、ご一考いただくとありがたい。
- 繰り返しになるが、それぞれのプロジェクトの内容が非常に充実している。準備に奔走して下さる生涯学習課の方々、担当の校長先生方の負担が大きいのではと推察されるが、おかげでどの学年も貴重な体験につながっている。

### 【4年生の「お宝発見ツアー」について】

#### （成果）

- 町内の施設、文化、歴史、産業を知れた。
- 児童たちにとっては、北広島町の再発見につながっています。
- 体を使い、五感を使って自然を体験できた。のびのびと活動できていたと思う。
- 本校では、万徳院での中世風呂体験・戦国の庭歴史館等の見学を行った。町内の史跡・歴史を学ぶことで、郷土への愛着と理解を深めることができた。また、町内で活動されているアンプティサッカーチームとの交流・体験を通して生き方を深めることができた。

- 町内の施設や体験だとしても、児童が未経験のことが多く、魅力を発見するという大きな目的を達成できたということ。
- そば打ち体験等を今回行ったが、「次は家族と行きたい」など、また来てみたいと考える児童も多かったこと。
- 児童が知らなかった町内にあるお宝に気づくことができたことが成果だと感じていた。北広島町のことなら何でも知っていると言っていた児童たちが、「素敵なところを初めて知った。」「もっと北広島町のお宝について学びたい。」と言っていた。
- アンプティサッカー体験では、北広島町を練習の拠点として活動しているチームの方と交流を深めることができた。障害を持つ方の気持ちを考えることもでき、地元で練習されているスポーツチームがあることも知ることができよい機会となった。
- 山の中でのジップラインや、高原の散策を通して、北広島町の自然のよさや、自然の中で活動する気持ちよさを感じられている様子だった。

#### （課題）

- ツアー内容を考えるところから学校に任されている。北広島町に馴染みの薄い職員が今後の増えるかもしれないことを踏まえて、各校のツアー内容を一覧にしてあると助かります。
- 自校の課題として、学ぶ際のマナー等の事前指導が不足していた。

- 時間がかなりタイトであったので、余裕をもった計画をたてる必要があった。
- ジップラインで恐怖感を持っていてできなかった子への配慮である。
- 振り返りの時間を学校では十分に取れなかった。じっくり考えたり、交流したりする時間をつくり、振り返りを充実させることができたなら良かったと思う。

#### （取組の工夫と改善点）

- ◎いっどこでどのような体験・学びができるか、リストのようなものがあれば、効果的な活動ができる。
- ◎学校が見学先をセレクトする際にその見学先の特徴をよく把握する必要がある。説明を聞くばかりだと、指導実態に合わないことがあるから。
- ◎授業の関係もあり、新庄小は複式（3・4年）学級で参加させてもらっている。次年度以降も、複式での参加をお願いする。日程変更にも柔軟に対応していただき、学校側としては助かった。

- ◎「お宝発見ツアー」の事後指導として、ツアーで見つけたお宝を川柳で表現した。また、学校で事前指導をもう少しした方が学びが深まったのではないかと反省した。
- ◎お宝発見はふるさと学習のよい機会となっている。単発で終わってしまう感があるので、年間を通してカリキュラムを考える必要がある。4年生は社会の学習で地域のことを扱うことが多いので、学校近辺の地域の方と協力して行うことができるようになるとありがたい。
- ◎しおりに北広島町のよさについて紹介するページを設け、体験したことからふるさとのよさについて考えられるように工夫した。
- ◎施設の方との連携や、天候不順の時の対応など、計画的に行うことができればよかったと思う。

## 【5年生の『民泊体験』～北広島のよさを満喫しよう～】

### (成果)

- 地域の方とのふれあいに何事にもかえることができない思い出になっています。ねらいにもあった課題解決や協働する場面の設定が適切であるので、児童への意識付けがしやすいプログラムである。
- 住んでいる場所以外の北広島町の良さを感じた。
- 他の家庭で過ごすということで、日頃の当たり前を見直す機会になったのではないかと。たいへん温かく迎えていただき、お別れがさみしそうだった。このふれあいがあったがありがたいです。
- 普段体験できない町内での体験・農家ならではの田舎暮らし体験ができたことが良かった。家とは異なる民泊家庭での生活・他の児童との共同生活は、自分の日頃の生活を見つめ直す良い機会となった。
- 民泊家庭の皆さんとの触れ合いが大変得難い貴重な機会になった。メニューが充実しているので児童や保護者の満足感が大きい。

- 児童も保護者も不安なことや心配なことはあった中ではあったが、特別に事前に民泊先の下見に行かせていただいたり、民泊家庭の方に温かい言葉かけや関わりをしていただいたりしたことで、とても楽しい気持ちで行くことができた。活動では、不安なことにもチャレンジすることで、今までにできないと思っていたことが、できるということに気づき、多くのことに自信を持つことができた。帰ってきて数ヶ月経った今でも、児童が時々、「民泊先にもう一度行って民泊家庭の方に会いに行きたい。」と言うことがある。児童にとって、とてもいい思い出になっている。
- 北広島町に住む方々と触れ合うことで「人」とのつながりを持つことができ、「〇〇さんのところにもう一度行きたい！」など、土地とそこに住む人への愛着を持つことができています。
- 人数が多いため単独校での開催となりました。他校との連携が必要ない分スムーズな部分もありましたが、児童に「初めて会う同年代との付き合い方(友達作り)」の経験もさせたいなという思いもありました。
- 町内民泊であったからこそ、同じ北広島町であっても気候や地形、まちの様子などの違いに気付くことができ、児童により体験をさせることができた。親戚なども含め他の家に泊まったことのない児童も少なからずおり、家ごとにやり方や暮らしぶりが違うことを知ることで、「違い」を受け入れる必然があり、児童の心の成長につながったと感じる。
- 少人数での民泊により、児童のリーダーとしての活躍の場が増え、よい機会になった。

### (課題)

- 民泊とは言え、ずっと学校の管理下にある。学校の先生以外の方々の中で自立させたい。
- 課題解決という点が弱いと思う。
- 時期によって、暑さ対策や天候に神経をつかいます。
- 民泊家庭での田舎暮らし体験について、1日めの訪問時の写真だけでは、様子がよくわからないし、効果的な発信ができないことが課題である。過去、民泊先の方が自主的に撮影された写真のデータをいただきこともあった。

- 11月の芸北は、寒いので暖かい時に民泊ができた方が良かったかなと思います。
- 「活動」はあるが、「学び」の視点が弱いと感じた。「活動」の中に、児童の迷いや判断、決断が求められる場面がもう少しあると良い。
- 2校で活動を行ったが、交流やお互いの活動からの学びが少なく、機会は用意されているが生かしきれていないと感じた。コロナ禍ということもあるが、2校の児童の協働的な活動から、自分への気付きが学び取れる活動にしていく必要があると感じる。

(取組の工夫と改善点)

- ◎初日の対面式で学校から生涯学習課と地域の方へよろしく申し上げますと引き渡して、その後は、学校から名実共に離れて活動し、最終日の閉会式で学校が児童達を引き取るという本当の意味の民泊にしたら、自立の取り組みになる。学校職員の業務改善、働き方改革にもつながる。
- ◎コロナ対応はあるものの、可能なところから他校の児童との交流を行い、初めて出会う友達とのコミュニケーションや協働活動の経験ができるが良い。
- ◎人数的なこともあると思いますが、中学校進学を考えたとき、地域の小学校同士で民泊が実施できればうれしいです。(今回はよかったです。)
- ◎養魚場でのつかみ取り体験は寒い時期であったので釣りに変わったがスムーズにできた。今後、足の怪我などでつかみ取りができない児童には、釣りを体験させることはできないだろうか。
- ◎民泊のすすめかたについて、4月に説明会があるとよい。初めて担当になると戸惑うことが多い。
- ◎民泊家庭での田舎暮らし体験の内容が事前にわかると、民泊先を決める時に役立つと考える(児童の希望にそう体験ができる)。事前に情報提供があれば良い。
- ◎3日目のつかみ取り等々の体験は時間に余裕があり過ぎたが、その後他校の実施の際には時間配分の調整があったと聞いているので、ノウハウが次年度に生かされるばかりではなく、今年度のうちに即改善対応できるところが良い。

- ◎コロナの関係で難しかった部分があるが、やはり他校と関わったりする機会があれば、児童たち同士のやり取りが増え、関係が広がるのではないかと思う。
- ◎児童の実態にあわせて、〈工夫〉事前の下見、自分専用のスケジュール表の作成、見通しを持たせる、活動の内容の調整、をおこなった。〈改善点〉砂利道の移動をバギーで行ったが、タイヤが大きい物でないと移動が難しい。
- ◎実際に体験ができることはふるさとの良さを知ることができると思うので、これからも様々な体験ができるようにしたいなと思います。
- ◎1日目は朝から体験活動ができるようになればいいのではと思いました。1日目は内容が対面式と田舎暮らし体験しかないので、もう少し充実させることができればいいなと思いました。
- ◎コロナ感染症にかかる本校の状況のため、当日緊急での抗原検査を行い、結果として急遽行けなくなった児童も出る事となりました。事情については保護者の方も理解はしてくださったのですが、ショックから立ち直るのに時間のかかる児童もいました。来年度コロナへの対策をどの程度行っている社会の状況かはわかりませんが、泊を伴う場合の検査の指針等を事前に児童や保護者にも伝えておくとうよかったのかなと思います。
- ◎1：他校の児童との活動班を仕組む。コロナ禍であることから難しい面もあると考えるが、できるところで行ってはどうか。2：しおりの工夫、活動後の振り返りやシェアリングの時間を活動内にしっかりとる。学びや気づきを交流させ、意識付けまで行えるよう、しおりの内容を工夫する。

## 【6年生の「夢と希望を乗せて、ロケットを飛ばそう」について】

### (成果)

- 話にエネルギーがあるので児童も職員も感動する。
- 植松氏の講演は、児童たちにも大変わかりやすく、良かった。
- 植松先生の話聞いて、自分のめざすべきものがはっきりして自信になった児童がいました。植松先生のお話が児童の生き方にも大きな影響を与えている。
- 毎年同じような話でも、聞く児童は初めてである。同じ内容に価値があると思いつけることができているのが大きな成果であるとする。
- やる気ももらってかえってきた。学校で打ち上げたが、大好評だった。
- 植松さんのお話は、児童達の心に届く本当に素敵なお話です。それぞれがしっかりと受け取ってくれていることと思う。
- 内容は非常に充実している。児童の印象に残ったもの、受け取ったメッセージの深さが児童の感想にうかがえた。

- 自分たちでロケットを作成し、空高く打ち上げることができた経験は、児童達の感動体験になり、科学への興味関心を高めたと思う。
- 児童が自分たちで教え合ってロケットを作る活動で助け合いながら取り組むことができた。
- 植松さんの話を聞くことで、将来に対して否定的に考えている児童が肯定的に考えるようになったように感じる。
- 夢を持ち続けることの大切さを自分ごととして受け止めていて、自分の夢に向かってこれからも頑張りたいと思って帰校してきたことが成果だと思った。
- 植松さんの話は、何度聞いても熱い気持ちになる。児童も、夢を持つ大切さや夢は1つじゃなくて良いことなどを感じ取っていたようだ。ロケット製作と、発射へのつながりも良い。
- 児童の夢に対する意識が高まったように思う。また、失敗に対する意識も変わったようで、失敗を恐れずにチャレンジする児童が増えたように思う。
- 植松さんとの出会いは児童達の人生において大きな意味を持つ出来事だと思う。講演は児童達の心に響き、染み渡るものでした。児童達はそれぞれ自分の現状と重ねながら話を受け止めていた。
- 児童から話を聞いた保護者からも肯定的な評価をいただいた。
- 植松さんの講演を通して、夢を持つことの大切さ、実現に向けて頑張ることの素晴らしさ等を学ぶことができた。
- ロケット製作にも、興味を持って意欲的に取り組むことができていた。
- 植松さんの話を聞いて、児童たちが夢をもつことの大切さや思い続けることの大切さを感じていた。また、たくさんの人と出会うことやコミュニケーションの大切さも感じていた。

### (課題)

- 天候不順により、ロケットは各校での打ち上げとなった。屋根に上がった民家の庭先に入ってしまったり、回収が大変だった。
- 植松さんの話とモデルロケット作製の関連性が児童に伝わっているのか。
- ロケット作製の際、指示が聞き取りにくかった。スピーカーの位置のせいかな。

- 天候に左右される、ロケットを学校で飛ばすことになった場合、広い敷地の確保が難しい学校がある。
- ロケットもそこで飛ばせたら良かった。作る時は他の学校とできたら良かった。
- コロナもあるが、せっかく集合して行こうのなら、他校との交流がしたい。また、運動公園の広いグラウンドでみんなで飛ばせなかったのが、大変残念だった。小雨ならロケット発射してほしい。
- 欠席者や天気で、ロケットがなかなか打ち上げられなかったことで講演とのつながりが薄くなった。







# 北広島「ふるさと夢プロジェクト」中学校事業について



芸北中学校

大朝中学校



千代田中学校

豊平中学校



北広島ふるさと夢プロジェクト事業は、町内小中学校で地域の資源（ヒト・コト・モノ）を生かし、発達段階に応じた学習を行っている。「ふるさとを愛し、誇りをもつ心を育てる」ことを目的に掲げ、事業の計画を行い、実施している。

## 令和4年度北広島ふるさと夢プロジェクト 活動報告

### 芸北中学校

#### 1. 実施した活動について

「芸北の宝で地域おこし：ジュニアトレッキングガイド」

令和4年9月29・30日 高原の自然館・水口谷湿原

中学校1年生が、芸北地域の豊かな自然環境について調べ、一般の方に説明することを通して地域の宝を再認識し、地域に誇りを持つことを目的に、一般参加者の方22名にトレッキングガイドを行った。



#### 2. 生徒の感想

芸北の自然についてたくさん調べているうちに、「芸北はこんなに良い所なんだ」と気付いて、芸北が好きになりました。トレッキングガイドは大変だったけど、「大変」という気持ち以上に「芸北は楽しい!」「芸北に来てほしい!」という気持ちの方が大きかったです。芸北だからこそできる、この学習を大切にしたいと思うし、新しいチャレンジをして良かったと思います。



#### 3. 活動を終えて

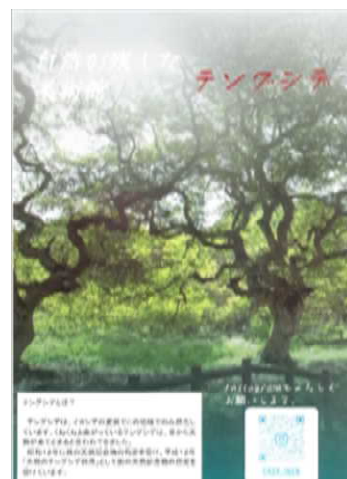
一般の方々へのガイドを行うという初めての試みだったが、広報活動から当日のガイドまで生徒が主体となり、活動を行うことができた。生徒自身は八幡湿原のガイドを行うことで、芸北の新たな良さを知り、地域への愛着を今まで以上に感じる事ができたと思う。

## 令和4年度北広島ふるさと夢プロジェクト 活動報告

### 大朝中学校

#### 1. 実施した活動について

年間を通して1年生が「大朝のテングシデ群落」のPR活動に取り組んだ。広島市内で、大朝のテングシデ群落や大朝についての聞き取り調査を行い、もっと多くの方にテングシデや大朝を知ってもらうためにどうするかを自分たちで考え、パンフレットの作成とInstagramの活用で情報発信することにした。それらの作成・活用に当たっては、集落支援員さんから話を聞いたり、地元の画家の指導のもとにテングシデのスケッチを行ったり、パンフレットの作り方をプロのライターから教わったりすることができた。



#### 2. 生徒の感想

大朝の魅力を再発見することができた。魅力はあまりないと思っていたが、大朝の地域以外の人から「テングシデに行ってみたい」「きれい」などと反応をもらえるとうれしかった。大朝のためにできることは何か考えていきたい。

#### 3. 活動を終えて

生徒たちは限られた時数の中で、「テングシデや大朝の魅力を発信するにはどうすればいいか」を自分たちで考え、地元の方をはじめ、様々な方の協力を得ながら活動に取り組むことができた。聞き取り調査なども積極的に行った。テングシデに対する地域の方の思いにも触れることができ、この活動を通してテングシデの魅力や大朝の良さに気付くことができた。



## 令和4年度北広島ふるさと夢プロジェクト 活動報告

千代田中学校

### 1. 実施した活動について

3年生総合的な学習の時間に「町づくり参画プロジェクト」と題し、北広島町長期総合計画に中学生として貢献できる取組を行った。

○「ちゅピCOMまちかどスタジオ」に生徒が生出演し、学校並びに町内の魅力をPRした。

○町を盛り上げるための中学生目線での「企画書」を作成し、役場商工観光課・町商工会・町観光協会へ提案した。



### 2. 生徒の感想

○改めて良い町だなと思った。おいしい食べ物はたくさんあるし、伝統も受け継がれていて、きれいな自然もあり、魅力しかないと思えた。これらの魅力を、テレビを見てくれる人にいかに伝えることができるのかを考えながら行動し、とても良い経験になった。

○1つの企画書を作るのにも、何度も訂正をしたり、1つの内容を何回も練り直したりしました。すごく大変だったけど、そこにはたくさんの人が関わっていると知ることもできて、すごい経験だったと思います。



### 3. 活動を終えて

○テレビというメディアを通して、生徒自身が考えた内容や方法で北広島町の魅力を発信できたことが有意義であった。生放送の緊張感が漂う中で、皆が協力し合い行動したことで、達成感や自己有用感を味わった。また、企画書づくりでは、大人と同じ視点で考えるには知識や経験が少なく、時間の制約もあり内容が浅かったが、地域実態を再認識することや中学生目線からの期待が伺え、町行政に対する関心が高まった。

## 令和4年度北広島ふるさと夢プロジェクト 活動報告

豊平中学校

### 1. 実施した活動について

毎月1回、そば打ちクラブに所属する15人の生徒が豊平どんぐり村にあるそば道場「どんぐり庵」に集まり、豊平手打ちそば保存会の方に指導を仰ぎながら、豊平の伝統文化のそば打ちに取り組みました。年に数回実施される豊平流そば打ち段位認定会で、より上位の段位を取ることを目標に、そしてもっとおいしいそばが打てるように頑張りました。



### 2. 生徒の感想

そばを打って持ち帰ることができるので、自分でもおいしくできていると思うときは家族も「おいしい」と言ってくれるので、やっていて良かったと思います。また、そば打ちの段も取れるので、やりがいを感じています。



### 3. 活動を終えて

地域の保存会の方に指導していただく良い機会になっています。生徒は皆そば打ち自体を楽しんでいて、中でも段位認定に挑戦する生徒は目標を持って取り組んでいます。また、何より家に持ち帰り食べる楽しみがあることが意欲につながっていると思います。



## お わ り に

北広島ふるさと夢プロジェクトは、「夢を持ち、ふるさとを知り、ふるさとを愛し、将来ふるさとに住みたい、ふるさとに貢献したいと思う子どもの育成」を目的としています。

これまで、地域のひと・もの・ことに関する学習や町内企業・施設での体験学習を通じて町内あるいは近隣学校の同学年同士の親睦を図る取組を行い、本町の豊かな自然・歴史・文化を生かして児童生徒一人一人の郷土への理解と愛情を深める学びを広め、ふるさとに誇りを持ち、たくましく生きる子供の育成を図ってきました。

未だ拡大の収まらない新型コロナウイルス感染症の影響により、子供たちの置かれた状況も引き続き厳しいものとなっています。しかしながら、今年度は感染防止対策を徹底することにより、小学校事業では、4年生は町内お宝発見ツアー、5年生は3年ぶりの民泊、6年生は株式会社植松電機代表取締役の植松努さんによる、「夢と希望をのせてロケットを飛ばそう」講演会を集合で実施する事が出来ました。中学校事業でも各学校によるキャリア教育の推進を踏まえた上で事業を行っています。これらの「体験活動」を実施することにより町内の仲間意識の醸成も図られてきています。

新型コロナウイルス感染症によって社会状況は一変しました。その中で改めて、人と人のつながる社会の必要性を考えるとこころです。コロナ禍はこれまでの社会構造に大きな疑問を投げかけ、郷土愛の創造はよりいっそう重要な課題となっています。新しい生活様式のなかでも、ふるさと「北広島町」で活躍する大人たちと様々なかたちで触れ合うことで、ふるさとへの愛着と誇りを醸成し、将来の地域を支える力につながればと思っています。

また、北広島町は昨年8月に「ゼロカーボンタウン」を宣言しました。今後、ふるさと夢プロジェクト事業の中でも環境学習に取り組み、このカーボンニュートラルの視点での事業も考えています。

今後も、子供たちが予測のつかない社会の中でも、たくましく生きぬく力を身につけるための学びを進められるよう、地域・保護者の皆様には引き続きご理解、ご協力を賜りたく存じます。

北 広 島 ふ る さ と 夢 プ ロ ジ ェ ク ト 応 援 隊  
副 隊 長 池 田 庄 策  
(北 広 島 町 教 育 委 員 会 教 育 長)